

# 寺川・鍋田川遺跡発掘調査報告書

—学校法人大阪産業大学内所在—

1991. 6

大東市教育委員会

# 寺川・鍋田川遺跡発掘調査報告書

——学校法人大阪産業大学内所在——

1991. 6

大東市教育委員会

## はしがき

生駒山西麓に位置する中垣内、寺川地区は縄文時代の有名な日下貝塚の北方にあり、この地域一帯は太古の昔よりの人々の足跡をたどることができます。

かつて人々は山の麓に生活の場を求め、やがて米作りの新しい技術を持った弥生人たちは、さらに低地の湿润な地を耕作地として、その周辺に生活の拠点となる集落を営んできたことが、最近の発掘調査によりうかがい知ることができます。

また山裾に沿って南北に走る東高野街道と外環状線道路付近には、古代条里制遺構が確認されており、これら地域一帯が中世、近代へと延々と続く重要な生活の場であることを物語るものであります。

今回報告される寺川・鍋田川遺跡においても多大な成果をあげることができました。寺川遺跡については飛鳥時代の掘立柱建物2棟が検出され、従来考えられてきました遺跡の性格がより明確となり、また鍋田川遺跡では従来の遺跡の範囲が西側に拡がることが確認されるとともに、古墳時代後期の掘立柱建物と考えられるもの等、縄文時代から古墳時代全般、また奈良時代にかけての遺構・遺物が多数検出されました。鍋田川遺跡では祭祀跡の存在が予測されており、今後の調査が期待されます。

一方、地域開発と遺跡保存という関係は互いに相容れない様相を示すものようです。しかし、私達の祖先が残した貴重な足跡である遺跡や、現在残されている自然環境は我々のかけがえのない財産なのです。今後とも市民の皆様の御理解、御協力を得て、文化財行政に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたり御協力を頂いた地元の方々、関係諸機関、ならびに調査に携わった諸氏の多方面にわたる御協力に対し、厚く御礼を申し上げる次第であります。

1991年6月

大東市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、大東市教育委員会が実施した、大東市中垣内3丁目にある学校法人大阪産業大学敷地内に所在する寺川遺跡、鍋田川遺跡の発掘調査報告書である。
2. 両遺跡の調査は、大東市教育委員会技師黒田淳を担当者として、寺川遺跡は1989年8月21日に着手し、同年9月27日に現地調査を終了した。また鍋田川遺跡は1989年8月21日に着手し同年10月21日に現地調査を終了した。
3. 発掘調査に係る費用のすべては学校法人大阪産業大学がこれをお負担した。
4. 調査及び整理の実施にあたっては、調査員中達健一、補助員大谷聰、大山清、玉本雅己、辻本智英、深沢吉隆、山科正男、北田享子、谷崎光子、森石千枝子、山本芳子、吉田すみ子、友田充代諸氏の協力を得た。

また大阪府教育委員会三宅正浩、松岡良憲、(財)和歌山県文化財センター河内一浩諸氏からは有益な助言を得た。

縄文土器に関しては、奈良大学助教授泉拓良氏、大阪府教育委員会大野薰氏から多大なる御教示を得た。記して感謝の意を表する次第である。

4. 本書の執筆は黒田淳、中達健一が行ない、編集は中達健一が行なった。
5. 本書の使用した標高はT.P(東京湾標準潮位)を使用した。
6. 調査において作成した写真、実測図、カラースライド等は大東市立歴史民俗資料館に保管している。広く利用されることを希望したい。

## 本文目次

### はしがき

### 例言

I. 調査に至る経過 .....	(中途) 1
II. 位置と環境 .....	(中途) 2
III. 調査の方法 .....	(中途) 6
IV. 寺川遺跡	
1. 基本層序 .....	(黒田) 7
2. 遺構 .....	(中途) 7
3. 遺物 .....	(中途) 15
4. まとめ .....	(中途) 18
V. 鍋田川遺跡	
1. 基本層序 .....	(黒田) 23
2. 遺構 .....	(中途) 24
3. 遺物 .....	(中途) 41
4. まとめ .....	(中途) 56

## 挿図目次

第1図 調査区位置図 .....	2
第2図 周辺の遺跡分布図 .....	3
第3図 寺川遺跡調査区区割図 .....	6
第4図 鍋田川遺跡調査区区割図 .....	6
第5図 SK09平面図・断面図 .....	8
第6図 南、西壁土層断面図 .....	9, 10
第7図 遺構全体図 .....	11, 12
第8図 SB01平面図・断面図 .....	13
第9図 SB02平面図・断面図 .....	14
第10図 水路平面図 .....	15

第11図	寺川遺跡出土遺物実測図	17
第12図	S D01、S K01、S K03遺物出土状況図	24
第13図	西、南壁土層断面図	25, 26
第14図	S D02平面図・断面図	27
第15図	S K04平面図・断面図	27
第16図	S K05遺物出土状況図	28
第17図	第1遺構面全体図	29, 30
第18図	第2遺構面全体図	31, 32
第19図	S K08平面図・断面図	33
第20図	S K10平面図・断面図	33
第21図	S K11遺物出土状況図	34
第22図	S K12平面図・断面図	34
第23図	S K13平面図・断面図	34
第24図	S K23平面図・断面図	35
第25図	S K26平面図・断面図	35
第26図	S K28平面図・断面図	36
第27図	S K29遺物出土状況図	36
第28図	S K31平面図・断面図	37
第29図	S K32遺物出土状況図	37
第30図	S K33平面図・断面図	38
第31図	S K34・35遺物出土状況図	38
第32図	S K36平面図・断面図	39
第33図	S K38平面図・断面図	39
第34図	S K41平面図・断面図	40
第35図	S K42遺物出土状況図	40
第36図	S B01平面図・断面図	40
第37図	鍋田川遺跡出土遺物実測図（1）	46
第38図	鍋田川遺跡出土遺物実測図（2）	47
第39図	鍋田川遺跡出土遺物実測図（3）	48
第40図	鍋田川遺跡出土遺物実測図（4）	49

第41図 鍋田川遺跡出土遺物実測図（5）	50
第42図 鍋田川遺跡出土遺物実測図（6）	51
第43図 鍋田川遺跡出土遺物実測図（7）	52
第44図 製塙土器実測図	53
第45図 韓式系土器実測図	54
第46図 織文土器実測図	55
第47図 鍤（鋤）先鉄製品実測図	55
第48図 石製品実測図	56

## 表 目 次

第1表 寺川遺跡ピット計測表	19～21
第2表 寺川遺跡出土遺物観察表	22
第3表 鍋田川遺跡ピット計測表	59～64
第4表 鍋田川遺跡出土遺物観察表	65～71

## 図版目次

図版1 寺川遺跡 全景（西より）①、全景（西より）②	
図版2 寺川遺跡 全景（北より）、S B01	
図版3 寺川遺跡 S P47遺物出土状況、S P51遺物出土状況	
図版4 寺川遺跡 S P55遺物出土状況、S P62遺物出土状況	
図版5 寺川遺跡 水路	
図版6 寺川遺跡 出土遺物	
図版7 鍋田川遺跡 全景（北東より）、全景（西より）	
図版8 鍋田川遺跡 S D01、鉄製品出土状況	
図版9 鍋田川遺跡 S K05、S K05遺物出土状況	
図版10 鍋田川遺跡 S K11、S K11遺物出土状況①	
図版11 鍋田川遺跡 S K11遺物出土状況②	
図版12 鍋田川遺跡 S K29、S K29遺物出土状況	

- 図版13 鍋田川遺跡 S K42遺物出土状況①、S K42遺物出土状況②
- 図版14 鍋田川遺跡 S K42遺物出土状況③、S K32遺物出土状況
- 図版15 鍋田川遺跡 S K35遺物出土状況、S K36遺物出土状況
- 図版16 鍋田川遺跡 水路1、水路2
- 図版17 鍋田川遺跡 出土遺物（1）
- 図版18 鍋田川遺跡 出土遺物（2）
- 図版19 鍋田川遺跡 出土遺物（3）
- 図版20 鍋田川遺跡 出土遺物（4）
- 図版21 鍋田川遺跡 出土遺物（5）
- 図版22 鍋田川遺跡 出土遺物（6）
- 図版23 鍋田川遺跡 出土遺物（7）
- 図版24 鍋田川遺跡 出土遺物（8）
- 図版25 鍋田川遺跡 出土遺物（9）
- 図版26 鍋田川遺跡 出土遺物（10）
- 図版27 鍋田川遺跡 出土遺物（11）

# 寺川・鍋田川遺跡発掘調査報告書

～学校法人大阪産業大学内～

## I. 調査に至る経過

寺川遺跡は田畠などの開墾により、以前から古墳時代の土師器や須恵器、中世の瓦器、土師器等が採集され、遺物散布地として知られていた。そして昭和61年には発掘調査が行なわれ、そこでは奈良時代と中世のものと思われる柱穴群、中世以降と考えられる段状遺構が検出されており、またそれらに伴う遺物も出土している。<sup>(1)</sup>しかし、調査面積も狭小であり、遺跡の性格については明確にし得なかった。今後の調査例が必要である。

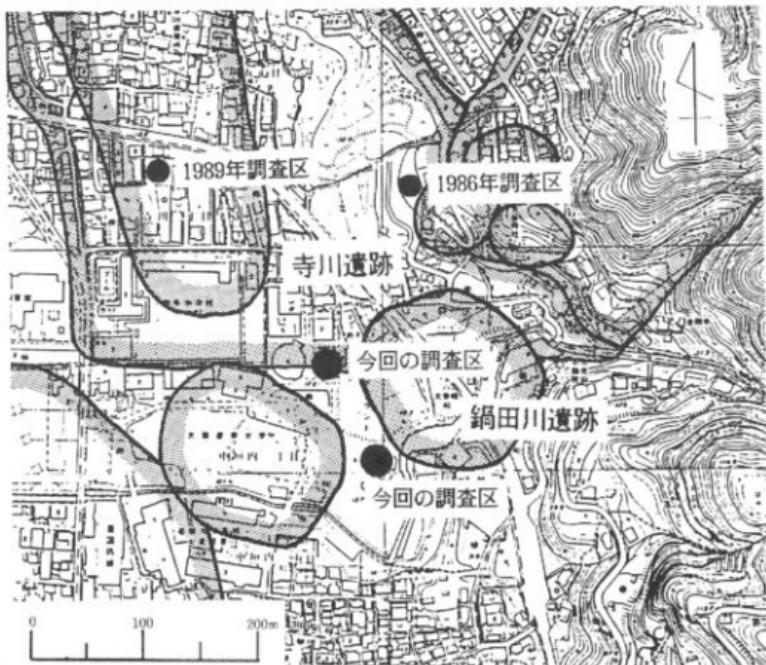
また鍋田川遺跡については、鍋田川の川底から土師器、須恵器が時々採集されており、古墳時代の住居跡の存在が推定されていた。その後、昭和33年9月の砂防堰堤建設工事が行なわれた際に、祭祀的性格をもつ鏡石、鹿角に刻線を施した呪具類、肩骨を用いた卜骨、<sup>(2)</sup>また弥生土器、土師器、須恵器が出土している。これらの成果から古墳時代の祭祀的性格の強い遺跡であろうと考えられていたが、本格的な発掘調査例はなく、寺川遺跡と共に今後の調査例が必要な遺跡であった。

今回の発掘調査の契機となったのは、学校法人大阪産業大学から校舎建て替え、クラブハウスの建設に関する平成元年4月26日付文化庁宛の届出によるものである。前者は「周知の遺跡」寺川遺跡に係り、後者は鍋田川遺跡の周辺地にあたることから、遺跡の有無を確認するために平成元年5月9日試掘調査を行なった。結果、両地点から包含層が確認されたので、学校法人大阪産業大学管財課と協議を重ねた結果、大東市立歴史民俗資料館が主体となって、校舎建て替え835m<sup>2</sup>、クラブハウス644m<sup>2</sup>の発掘調査を実施することとなつた。

### 註

(1)三宅正清・黒田淳『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市教育委員会 1987

(2)『大東市史』大東市教育委員会 1973



第1図 調査区位置図

## II. 位置と環境

寺川遺跡は大東市寺川3～5丁目、中垣内3丁目に所在する縄文時代から奈良時代にかけての複合遺跡であり、鍋田川遺跡は中垣内3丁目に所在する弥生時代から古墳時代にかけての複合遺跡である。

立地については、寺川遺跡は生駒山西麓にひろがる扇状地に位置し、鍋田川遺跡は生駒山地から派生する低位段丘上に位置しており、両遺跡それぞれ標高10～15mにある。

両遺跡の周辺地域で生活が開始されたのは旧石器時代で、宮谷古墳群<sup>(1)</sup>、北条遺跡<sup>(2)</sup>で、後期旧石器時代に属する有舌尖頭器がそれぞれ出土している。

縄文時代では、今のところ遺跡としては確認されていないが、北新町遺跡の自然河川か



- |            |              |           |            |              |
|------------|--------------|-----------|------------|--------------|
| 1. 中道内遺跡   | 2. 若宮遺跡      | 3. 大谷城残石  | 4. 国見高地性遺跡 | 5. 七ツ廻り古墳    |
| 6. 鍋田川遺跡   | 7. 元粉遺跡      | 8. 寺川遺跡   | 9. 寺川古墳群   | 10. 城の越古墳    |
| 11. 大谷神社古墳 | 12. 城の越上の段古墳 | 13. 大谷古墳群 | 14. 太鼓山遺跡  | 15. 十林寺古墳    |
| 16. 六地蔵古墳  | 17. 堂山古墳群    | 18. 堂山上遺跡 | 19. 堂山下遺跡  | 20. 市寺川配水場古墳 |
| 21. 瓦堂遺跡   | 22. メノコ遺跡    |           |            |              |

第2図 周辺の遺跡分布図

ら中期初頭の里木式、後期初頭の津雲式、晩期末の船橋式と呼ばれる土器片が出土している。また今回調査した鍋田川遺跡においても中期後半の北白川C式と呼ばれる土器片が出土しており、今後、縄文時代の遺跡が発見される可能性が十分考えられる。

弥生時代に入ると、当時河内潟と呼ばれる低湿地周辺に遺跡が立地するようになり、前期では四条畷市雁屋遺跡<sup>(4)</sup>、大東市中垣内遺跡<sup>(5)</sup>がある。また最近では野崎条理遺跡においても前期の遺跡が確認された。中期から後期になると丘陵地にも立地するようになり、国見高地性遺跡、宮谷古墳群<sup>(6)</sup>、北条遺跡<sup>(7)</sup>から後期の土器が出土している。

古墳時代で北新町遺跡、中垣内遺跡、寺川遺跡、鍋田川遺跡がある。北新町遺跡では中期に属する4棟の掘立柱建物の他に、河川に伴う前期の堰が検出されている。<sup>(8)</sup>また2期の調査では、大規模な倉庫群が数棟検出されている。中垣内遺跡では多量の古墳時代前期の土器と共に、直弧文入木製品、小型素文鏡、管玉等が出土しており、祭祀性の強い遺跡と思われる。古墳に関しては、前期の古墳はなく中期に入り堂山古墳群、後期に入り、北条古墳群、宮谷古墳群、墓谷古墳群がそれぞれ形成される。また城ヶ谷遺跡でも後期古墳が2基検出されている。<sup>(9)</sup>中期の堂山古墳群の1号墳からは三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鐵鎌等、多量の製鉄武器武具類を収めているなど、首長墓的様相を示し、大東市周辺の古墳を考えるうえで注目される。

奈良時代では、寺川遺跡、堂山古墳群でそれぞれ掘立柱建物の1部が確認されているが、現状ではその集落の内容は明らかになっていない。

中世にいたると、生駒山西麓部に南北に走る東高野街道、また西方の深野池の存在で、水陸両交通の拠点を擁した地域であったため、寺川遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群等で多数の遺構が確認されており、また深野池周辺に位置していたであろう北新町遺跡では鎌倉時代の居館跡が検出されている。<sup>(10)</sup>中世後半になると、その起源は明らかでないが飯盛城、三箇城の存在が窺われる。前者では16世紀に戦国の武将、三好長慶の拠点となっており、また後者ではキリストンで有名な三箇サンチョと共に知られているが、考古学的にはまだ明らかにされていない。

近世に入ると、永宝元年(1704)の大和川付替と共に河内屋北新田、横山新田等の新田開発が盛んになり、ほぼ現在の地形へとなる。

#### 註

- (1) 三宅正浩・黒田淳他『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市教育委員会 1987
- (2) (1)と同じ
- (3) 辻本武『大東市北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』大東市北新町遺跡調査会 1986
- (4) 辻本武『雁屋遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会 1987

- (5) 東宏「弥生時代」『大東市史』大東市教育委員会 1973  
黒田淳『大東市埋蔵文化財発掘調査概報・1988年度』大東市教育委員会 1989
- (6) 1990年に大東市教育委員会が実施した下水工事に伴う調査による。
- (7) 黒田淳『宮谷古墳群調査報告書Ⅰ』大東市教育委員会 1988
- (8) (1)と同じ
- (9) (3)と同じ
- 10 北新町遺跡調査会『北新町遺跡第2期発掘調査現地説明会』資料 1988
- 11 1987年に実施した、大阪産業大学校舎増築工事と伴う調査による。
- 12 黒田淳『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市教育委員会 1990
- 13 田代克己・瀬川健『堂山古墳群発掘調査概要』大阪府教育委員会 1973
- 14 (1)と同じ
- 15 (3)と同じ
- 16 (1)と同じ
- 17 (1)と同じ
- 18 1987年の調査による
- 19 1987年により北新町遺跡調査会が実施した府営住宅建替工事に伴う第2次発掘調査による
- 20 浄謙俊文「三好長慶と飯盛山」『大東市史』大東市教育委員会 1973
- 21 浄謙俊文「三箇のキリシタン」『大東市史』大東市教育委員会 1973

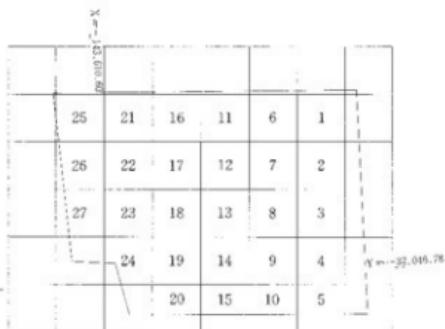
### III. 調査の方法

今回の両遺跡の地区割りは、共に調査の過程上、任意の地点から磁北による地区割を設定し、5 m四方のグリッドが最小の調査区となるようにした。しかし、寺川遺跡の北側部分、鍋田川遺跡の南側部分等の中途半端な地区は便宜上、近接の地区にいた。

呼称については、寺川遺跡では北東隅から東へ1区、2区と平行式に称し（第3図）、鍋田川遺跡では南西隅から北に1区、2区と平行式に称することにした（第4図）。またこれは報告書内の記述の上において使用している。

両遺跡とも包含層の出土遺物の採り上げについては、既に設定した区画毎に行ったが、遺構の実測、遺物の出土状況の実測等に関しては国土座標第VI系を使用している。また図面等の方位については座標北、標高についてはT.P（東京湾標準潮位）を使用している。

両遺跡の掘削に関しては、耕土及び盛土層は機械掘削、包含層及び遺構は人力掘削を行った。



第3図 寺川遺跡調査区区割図



第4図 鍋田川遺跡調査区区割図

## IV. 寺川遺跡

### 1. 基本層序

調査当時の地表は調査区の北で標高約18.5m、南17.5mを測る。調査前は調査区の北の約3分の2は校舎が建ち、南の約3分の1は庭園に利用されていた。校舎部分と庭園部分では高低差約40cmの段差があり、2段の平坦面を形成していた。そのため本来の旧地形は明らかではないが、周囲の状況から推定すると、北東から南西方向に緩やかな傾斜をもった土地であったと考えられる。後世の開墾等により段が付けられた後、校舎建設時の削平で平坦面が形成されたものであろう。この削平によって旧地形はかなり失われたらしく、上段の校舎部分では遺物包含層及び遺構面は消失してしまっていた。

ここでは削平の影響が比較的少ない調査区の東西方向（南壁）、南北方向（西壁）の層位をもとにして遺構と層位の関係を簡単に述べることにする。

盛土は校舎建設時のもので調査区全体で認められるが、調査区北側部分では校舎解体時の削平、整地のための南側部分よりも層厚は薄い。盛土の直下には黒灰色を呈する旧耕作土が堆積する。層厚は上段では4～18cmと薄く、下段では庭園造成時の削平のために消失している。旧耕作土の下には明赤褐色砂混じり土（23層）が堆積する。上段ではこの土をベースとして遺構面を検出しているが、下段ではこの土の層厚は薄く、灰オリーブ色シルト（14層）、にぶい褐色粗砂（19層）、赤褐色砂混じり土（7層）、暗オリーブ色砂混じり土（2層）、暗緑灰色砂混じり土（3層）等の砂質土をベースとしている。さらに下層には灰色砂混じり土（25層）、また調査区南側では灰黄褐色砂混じり土（15層）や灰オリーブ色シルト（16、18、20層）の互層がみられるが、これらの層からは遺物が出土しておらず、今回の調査では地山と考えた。

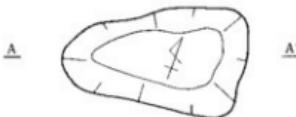
### 2. 遺構

今回の調査地は、既に建造物が建っていた場所であった。そのため、ほぼ半分に至る遺構面が削平されていたが、土壤、掘立柱建物、多数のピットが検出された。以下、遺物が出土し、年代の比定が可能なものを中心に個々の遺構について記す。

#### 土壤

S D09（第5図）

7区で検出した土壤である。不定形状を呈し、長軸1.08m、短軸0.6m、深さ0.13mを測った。内部から古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代後期に比定できるものと考える。



#### 掘立柱建物

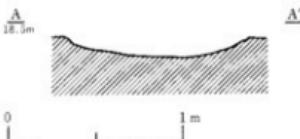
今回の調査で2棟の掘立柱建物を検出した。

#### S B01 (第8図)

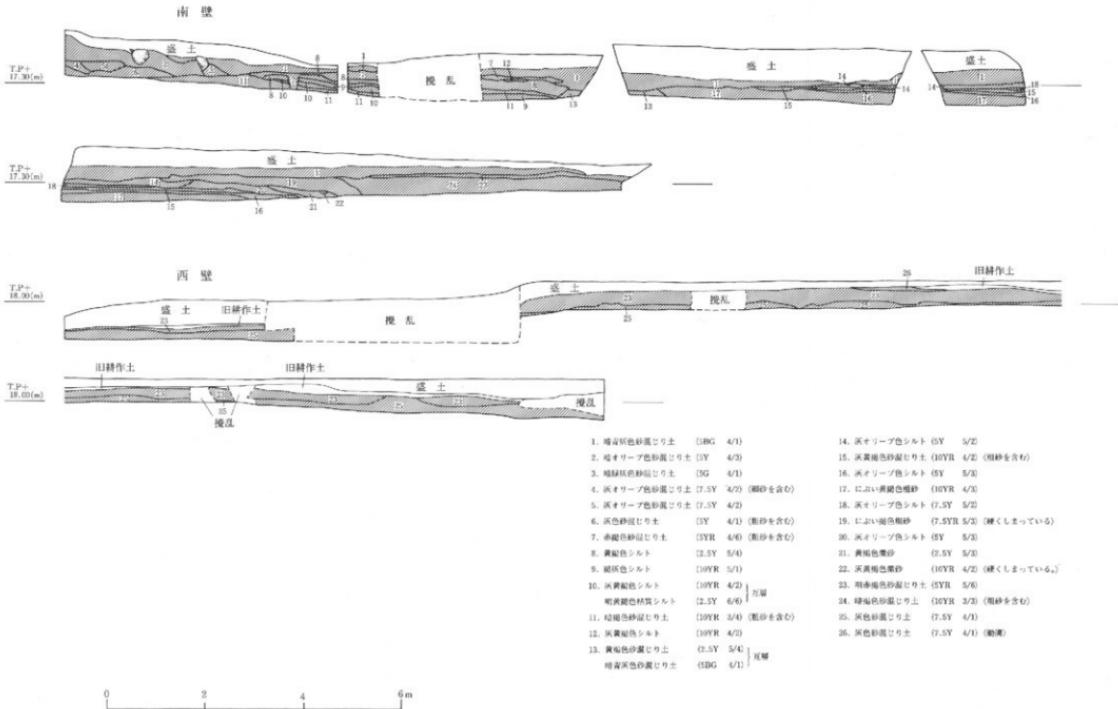
11、12、16、17区にかかる地区で検出された掘立柱建物址である。2間×2間の規模である。柱間はすべて約2mを測った。建物の軸はN-10°-Wを示している。柱穴の形態は隅丸方形を呈しており、規模は0.7~0.8mで、深さは0.3m程である。柱穴からは土師器・須恵器が出土した。6世紀後半から7世紀に比定できるものと考える。

#### S B02 (第9図)

16、17区にかかる地区で検出された掘立柱建物址である。南、東側が攪乱のため規模は不明である。建物の軸はN-12°-Eを示している。柱穴の形態は隅丸方形、橢円形、円形と不揃いであるが、それぞれの規模は径0.7m、深さ0.02~0.04mである。S P61、S P62のうち、建物に属する方は不明であるが、柱間の規模から考えるとS P61の方が可能性が高いと考えられる。柱穴からは土師器、須恵器が出土している。S B01が隣接しており、その関連性から6世紀後半から7世紀に比定できるものと考える。



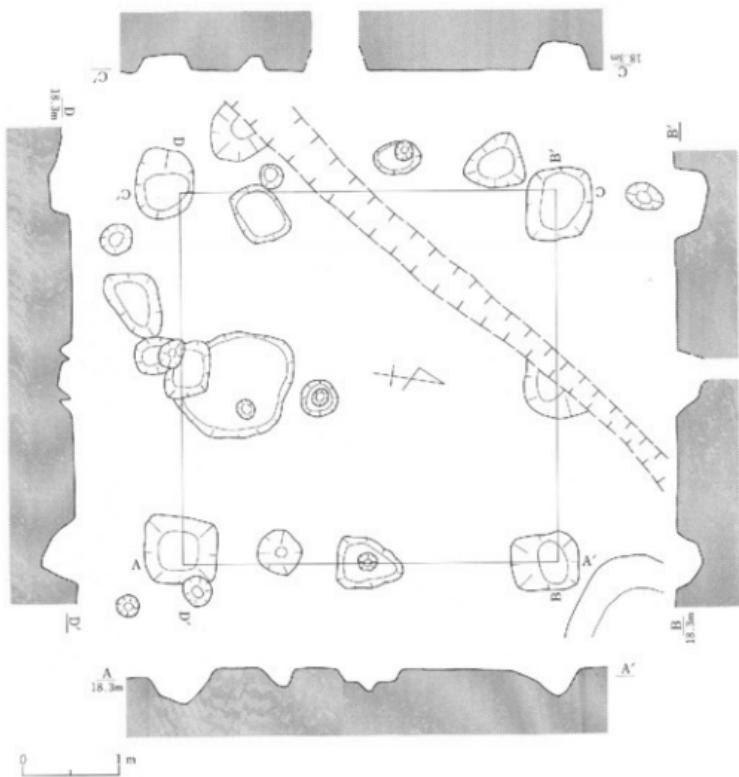
第5図 S K09平面図・断面図



第6図 南、西壁土層断面図



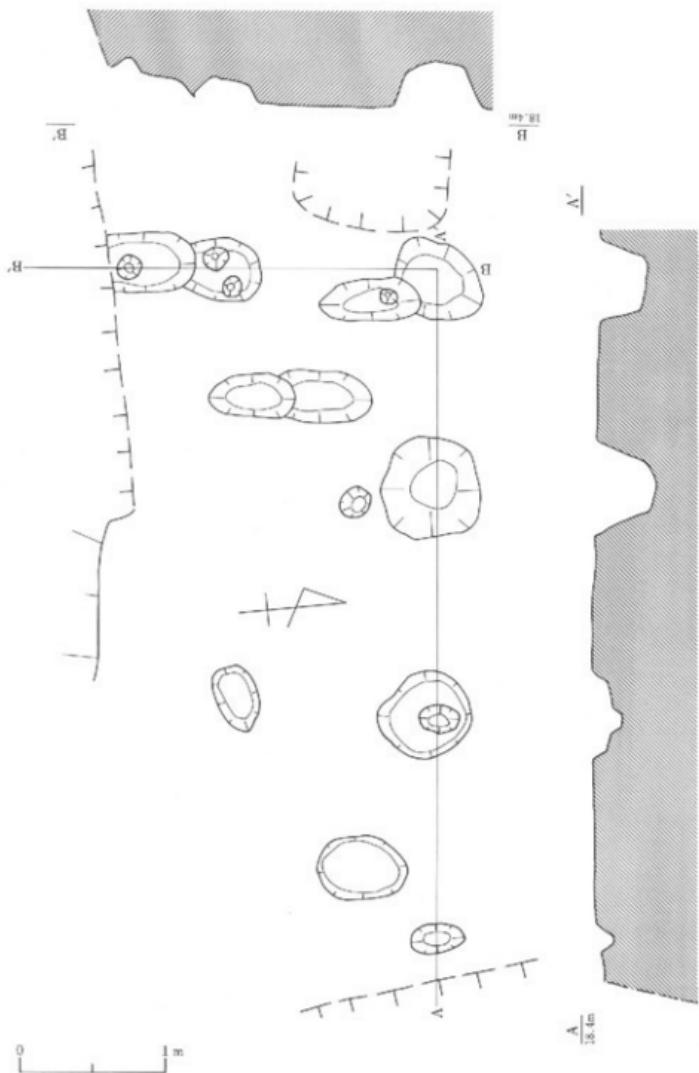
第7図 遺構全体図



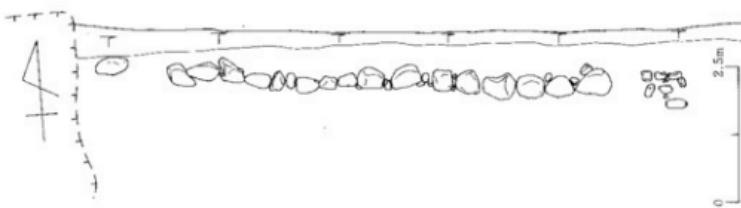
第8図 SB01平面図・断面図

#### 掘立柱建物以外のピット

今回の調査では数多くのピットが検出されたが、大部分は性格不明のピットであった。遺物が多少出土したものがあり、図示できるものは報告した。また規模についてはピット計測表を作成した。（第1表）



第9図 SB02平面図・断面図



第10図 水路平面図

#### 水路（第10図）

調査区南側に段状に落ち込む部分があり、その境の落ち込んだ部分に1個約0.3~0.4mの石列が東西に約10m並んでいた。水路としての形態は後世の削平のため明確ではないが、遺物は染付磁器が1点出土しており、近世以降における水路と考える。

#### 3. 遺物

今回の調査で遺構に伴う遺物がわずかであるが出土している。出土した遺物はすべて土器であった。各遺構ごとに記述していく。

#### S K09出土土器（第11図1）

図示したのは1点であった。1は須恵器の杯身である。立ち上がりは内傾し、端部は丸くおさめている。

#### 掘立柱建物出土土器（第11図2~12）

これらはすべて柱穴掘形内から出土したものである。以下、各建物ごとに説明する。

#### S B01出土土器（2~7）

図示したのは6点である。2~4は須恵器で、杯蓋（2、3）、杯身（4）がある。5・6はそれぞれ土師器の杯であり、両者とも口縁端部は外方へつまみだすようにして終わっている。7は土師器の甕である。

#### S B02出土土器（8~12）<sup>(1)</sup>

図示したのは5点である。8・9は須恵器の杯身である。10・11は土師器の杯であり、

口縁端部が外方へつまみだして終わるもの⑩、丸くおさめるもの⑪がある。12は土師器の甕である。

#### その他のピット出土土器（第11図13～21）

建物以外のピットからも土器が出土した。

##### S P01出土土器⑬

図示したのは1点である。13は須恵器の杯身である。立ち上がりは短く内傾し、端部は上方に屈折して終わっている。

##### S P47出土土器（14～17）

図示したのは4点である。14・15は須恵器の杯身である。16・17は土師器の鉢である。16は口径17cmで、口縁端部は外方へ折り曲げるようにして終わっている。17は口縁端部が内傾して終わっている。

##### S P55出土土器（18～20）

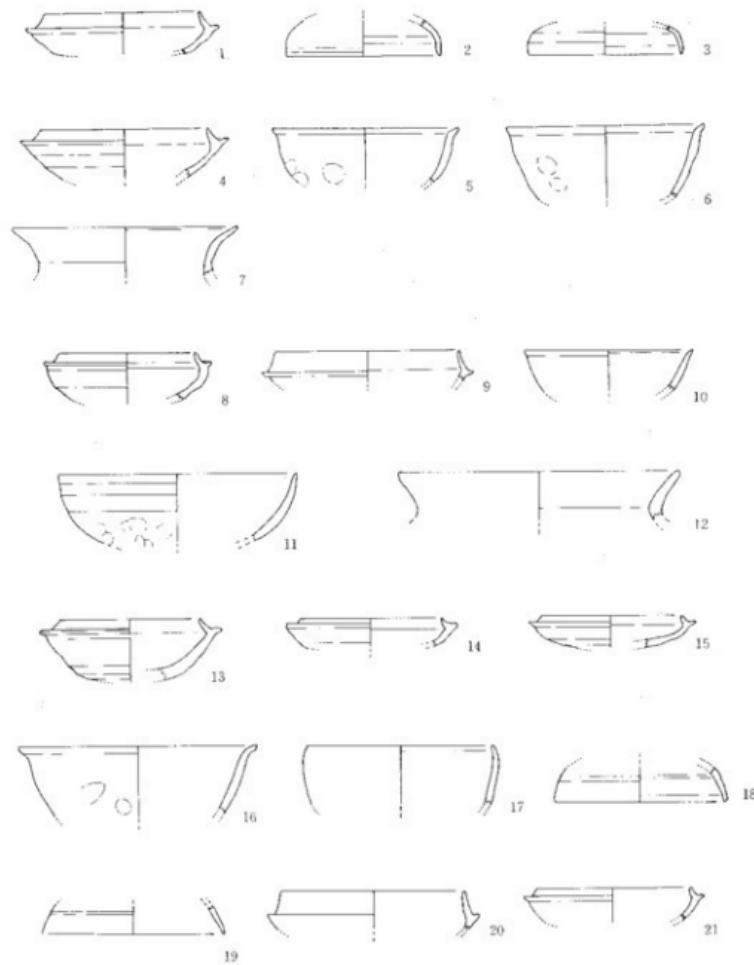
図示したのは1点である。すべて須恵器の杯身である。

##### S P85出土土器（21）

図示したのは1点である。21は須恵器の杯身である。

#### 註

(1) S P61・62の出土遺物は、建物址にどちらのピットが属するか判断しがたいため、まとめて報告する。



SK09(1) SB01(2~7)  
 SB02(8~12) (SP62(9~11) · SP61(12))  
 SP01(13) SP47(14~17)  
 SP55(18~20) SP65(21)

第11図 寺川遺跡出土遺物実測図

#### 4. まとめ

今回の調査は校舎建替えに伴うものであったため、大半の遺構面が破壊されていたが、幸いにも掘立柱建物2棟、土壙、柱穴、また近世以降の水路の痕跡と思われる石列を検出することができた。ほとんどの土壙、柱穴は遺物を含まないものが多く、また含まれても時期を決定するには不可能なものであった。しかし、掘立柱建物2棟に関しては遺物もわずかであるが出土しており、6世紀後半から7世紀のものと考えられるものであった。

S B01は2間×2間の建物であるが、S B02は一部分既に破壊されていたため、規模は不明である。しかしながら、双方の軸はほぼ同時であり、占地関係、また遺物からみても同時期であることから判断し、規模も同程度のものと考え、同時存在の可能性も強いものと考えている。

寺川遺跡のこれまでの調査例は1件のみで、奈良時代と中世のものと考えられる柱穴群と、中世以降と考えられる段状遺構を検出したのみで<sup>(1)</sup>、遺跡の性格としては明確にし得なかった。しかし、今回の調査で7世紀代と考えられる掘立柱建物が検出されたことにより、かなり明確になったものと思われる。

今回、本書に載せられている鍋田川遺跡においても7～8世紀代の遺物が数多く出土している。今回の調査地点からわずか80m程しか離れていない場所であり、寺川遺跡との関連性が考えられ、遺跡はより広がる様相を示している。

寺川遺跡に関する調査は緒についたばかりである。今後の調査例を持ち、資料の増加をもって慎重に遺跡の性格付けを行うことが望ましいのは言うまでもない。今後、更に調査を重ねることによって、明確にしたいと考えている。

#### 註

- (1)三宅正浩・黒田淳『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市教育委員会 1987

第1表寺川遺跡ピット計測表

遺構番号	地 区	形 状	平面規模(縦×横)	深 さ	備 考
S P - 01	1	隅丸方形	74×66cm	17.5cm	擾乱に削られている
02	〃	楕円	60×20	9.8	〃
03	〃	〃	80×27	19.1	〃
04	〃	円	18×18	7.4	〃
05	2	隅丸方形	52×58	30.9	
06	1	楕円	37×23	13.5	
07	2	〃	54×40	6.1	
08	〃	〃	43×26	9.8	
09	6	〃	40×30	18.7	
10	〃	〃	20×20	6.0	
11	7	隅丸方形	54×44	10.5	
12	6	楕円	30×18	9.3	擾乱に削られている
13	〃	円	22×19	2.5	
14	〃	〃	20×16	1.3	
15	〃	楕円	56×30	5.7	擾乱に削られている
16	〃	円	18×18	1.9	
17	〃	〃	16×14	2.8	擾乱に削られている
18	〃	〃	28×26	4.8	〃
19	11	円	28×28	不明	〃 (未掘削)
20	〃	楕円	54×36	7.8	
21	〃	〃	35×24	8.9	
22	〃	〃	66×58	10.9	
23	〃	隅丸方形	78×70	34.1	
24	〃	〃	84×40	28.4	擾乱に削られている
25	12	〃	75×66	28.3	
26	11	楕円	44×36	26.0	
27	〃	〃	57×37	25.2	20×20 9.1の柱穴あり
28	12	〃	74×54	14.7	16×16 7.6の柱穴あり
29	11	円	26×26	不明	(未掘削)
30	〃	楕円	64×50	27.5	擾乱に削られている
31	〃	隅丸方形	64×50	22.2	
32	11・16	〃	76×61	19.9	
33	11	円	40×40	5.8	16×16 5.3の柱穴あり
34	11・12	隅丸方形	135×120	12.5	20×20 8.3の柱穴あり
35	11	〃	60×50	20.6	
36	11・16	〃	54×40	14.1	32×26 6.2の柱穴あり
37	〃	〃	84×54	8.5	
38	16	円	36×30	17.1	
39	〃	〃	55×54	16.9	23×23 13.6の柱穴あり
40	〃	隅丸方形	45×38	16.5	
41	12	円	50×50	17.9	
42	〃	楕円	27×16	16.0	
43	〃	隅丸方形	76×74	37.0	

遺構番号	地区	形 状	平面規模(縦×横)	深 さ	備 考
44	〃	円	33×32	22.2	
45	〃	〃	30×24	16.1	
46	12・17	〃	24×24	14.5	
47	17	〃	50×45	13.0	20×20 2.0の柱穴あり
48	〃	隅丸方形	65×59	13.7	28×22 7.5の柱穴あり
49	〃	椭円	37×22	13.5	
50	〃	〃	65×46	5.0	15×12 9.2の柱穴あり
51	16・17	〃	48×29	21.4	土師器片出土
52	16	隅丸方形	76×70	43.5	
53	〃	円	22×20	11.2	
54	〃	椭円	57×42	19.5	
55	〃	〃	58×33	22.0	
56	〃	〃	70×55	31.9	
57	〃	椭円	73×30	14.9	10×10 5.8の柱穴あり
58	〃	〃	54×25	25.2	擾乱に削られている
59	〃	〃	50×30	22.1	擾乱に削られている
60	〃	〃	50×29	不明	(未調査)
61	〃	〃	47×45	13.3	14×14 8.5と16×16 5.3の2柱穴あり
62	〃	〃	59×44	23.7	17×15 5.6の柱穴あり 土師器片出土、擾乱に削られている
63	17	〃	64×50	13.3	擾乱に削られている
64	〃	円	35×32	5.8	
65	18	〃	45×43	9.1	
66	〃	〃	43×36	9.3	
67	〃	隅丸方形	46×21	6.9	
68	〃	円	28×26	8.0	
69	〃	〃	22×17	4.1	
70	〃	〃	36×32	22.5	
71	〃	〃	17×17	4.4	
72	〃	椭円	30×29	11.5	
73	〃	円	34×33	14.4	
74	〃	椭円	25×20	9.4	
75	〃	〃	25×20	10.1	
76	19	円	23×22	1.9	
77	22	〃	22×18	5.8	
78	〃	〃	20×18	5.8	
79	〃	〃	24×22	6.1	
80	26	〃	19×18	6.5	
81	21	〃	30×26	2.5	9×8 7.1の柱穴あり
82	21・25	〃	23×23	7.0	
83	25	〃	46×43	8.6	擾乱に削られている
84	〃	椭円	26×21	2.0	
85	〃	〃	33×28	4.9	12×10 6.3の柱穴あり
86	〃	円	22×20	3.3	

遺構番号	地区	形状	平面規模(縦×横)	深さ	備考
87	〃	〃	20×18	2.4	
88	〃	〃	43×27	7.1	
89	〃	〃	52×52	6.0	
90	〃	〃	34×32	13.5	
91	〃	〃	24×21	4.5	
92	〃	〃	33×32	8.5	
93	〃	〃	18×17	2.7	
94	21	〃	26×10	7.3	側溝に削られている

第2表寺川遺跡出土遺物観察表

番号	器種	出土地点	径 寸	胎土 焼成・色調	口縁部	体 部	底 部	備 考
1	杯	S K - 9	口径：11cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡灰青色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		復原器
2	杯蓋	S P - 35	口径：11cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡灰青色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		復原器
3	杯蓋	S P - 28	口径：11cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡灰色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		復原器
4	杯	S P - 43	口径：12cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡灰色	ヨコナデ	外面：(上部)回転ナデ (下部)回転ヘラ削り 内面：回転ナデ		復原器
5	杯	S P - 25	口径：13cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡黄褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土器器
6	碗	S P - 23	口径：14cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：明褐色	ヨコナデ	内外面共表面剥離の為 調整不明		土器器 1.2m 内 の石粒を含む
7	甕	S P - 25	口径：16cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：茶褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土器器 生糞・牛糞渣 カタツムリを含む
8	杯	S P - 56		胎土：密 燒成：良好 色調：淡灰色	ヨコナデ	外面：(上部)回転ナデ (下部)回転ヘラ削り 内面：回転ナデ		復原器
9	杯	S P - 62	口径：15cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡灰色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		復原器
10	碗	S P - 62	口径：12cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：明褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土器器
11	杯	S P - 62	口径：17cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡褐色	ヨコナデ	外面：(上部)回転ナデ (下部)ヨビオサエ 内面：表面剥離の為調 整不明		土器器
12	甕	S P - 61	口径：20cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡黄褐色	ヨコナデ	外面：回転ナデ 内面：(上部)回転ナデ (下部)ヘラ削り		土器器
13	杯	S P - 1	口径：16cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡青色	ヨコナデ	外面：(上部)回転ナデ (下部)沿軸ヘラ削り 内面：回転ナデ		復原器
14	杯	S P - 47	口径：10cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡青色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		復原器
15	杯	S P - 47	口径：10cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡褐色	ヨコナデ	外面：(上部)回転ナデ (下部)回転ヘラ削り 内面：回転ナデ		復原器
16	杯	S P - 47	口径：17cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：褐色	ヨコナデ	外面：ヨビオサエ 内面：表面剥離の為調 整不明		土器器
17	碗	S P - 47	口径：13cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土器器
18	杯蓋	S P - 55	口径：12cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡灰色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		復原器
19	杯蓋	S P - 55	口径：13cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡灰色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		復原器
20	杯	S P - 55	口径：13cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：淡褐色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		復原器
21	杯	S P - 86	口径：11cm (復元)	胎土：密 燒成：良好 色調：灰色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		復原器

## V. 鍋田川遺跡

### 1. 基本層序

調査区は鍋田川遺跡右岸の丘陵上に位置し、調査当時の地表は調査区の北で標高約16m、南では14.3mを測る。北東から南西方向にかけて緩やかに傾斜する丘陵斜面にあたるが、後世の開墾等で段がつけられ、二段の平坦面を形成していた。調査前は大学のクラブハウス等の施設が建てられていた場所である。

ここでは、調査区の東西方向（南壁）、南北方向（西壁）の層位をもとにして遺構と層位の関係を述べることにする。

盛土は建物建設時のもので、層厚は上段では約10cm前後と薄いが、下段では約1.1mを測り、特に下段の南西で厚く堆積している。建物建設のため傾斜地を平坦にするためのものであろう。盛土の直下には灰色を呈する旧耕作土（1、27層）があるが、層厚は薄く、上段では削平のため消失している箇所もある。盛土を除去した時点で調査区の下段南西でさらに段が検出され、（以後、各段をそれぞれ上段、中段、下段と呼ぶことにする）建物が建つ以前は三段の地形で形成されていたことが判明した。この段状の地形は、さらに南西に続くものと推定され、盛土される直前までこの付近一帯は、斜面を利用した段々畑（棚田）であったようである。各段には、これに伴うと考えられる杭列と水路を検出しており、第1遺構面とした。杭や水路の施設は染め付け等が出土していることから近世のものと考えられるが、この段が最初につくられた時期は明らかではない。旧耕作土を除去すると、赤褐色砂混じり土（28層）、明赤褐色砂混じり土（2層）が堆積するが、薄い。その下にはにぶい黄褐色砂疊混じり土（3層）、暗灰黄色土（4、9層）、暗灰黄色砂混じり土（16層）、褐色砂混じり土（17層）、灰色砂質土（41層）、暗灰黄色砂質土（42、44層）、灰褐色砂疊混じり土（50層）、にぶい赤褐色砂混じり土（51層）等の段を構成している層の堆積がみられる。これらの層を除去すると上段と中段の東側では、にぶい黄褐色砂疊土（5層）が中段、下段の西側では、暗灰黄色れき混じり土（19層）、灰オリーブ色砂質土（40層）が堆積し、上段の西側では明黄褐色砂疊混じり粘質土（48層）が堆積であろう。これらの層自体には遺物は含まれておらず、地山と考えられる。これらの層の上面で遺構を検出しており第2遺構面とした。

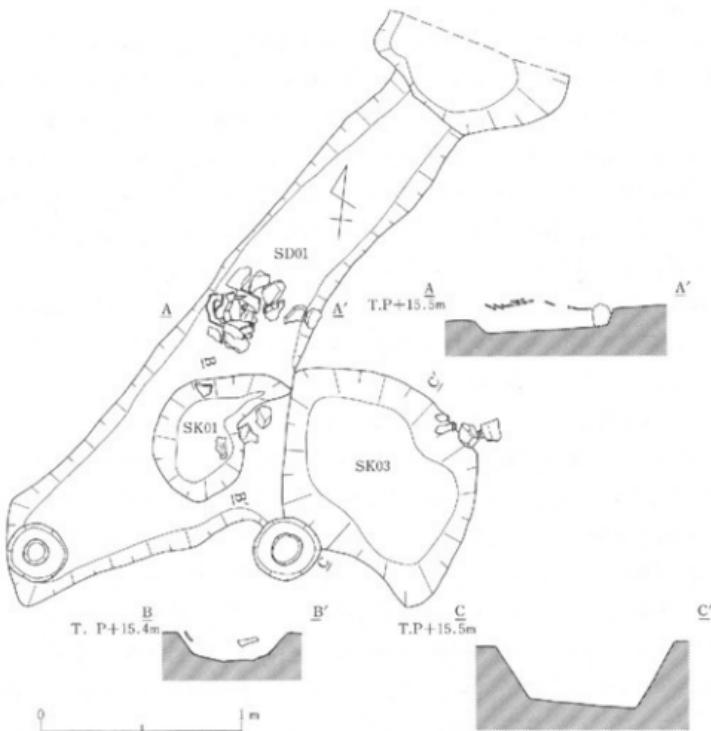
## 2. 遺構

今回の調査地では多数の土壤、ピット、また溝、近世遺構の水路が検出された。以下、遺物が出土し、年代の比定が可能のものを中心個々の遺構について記す。

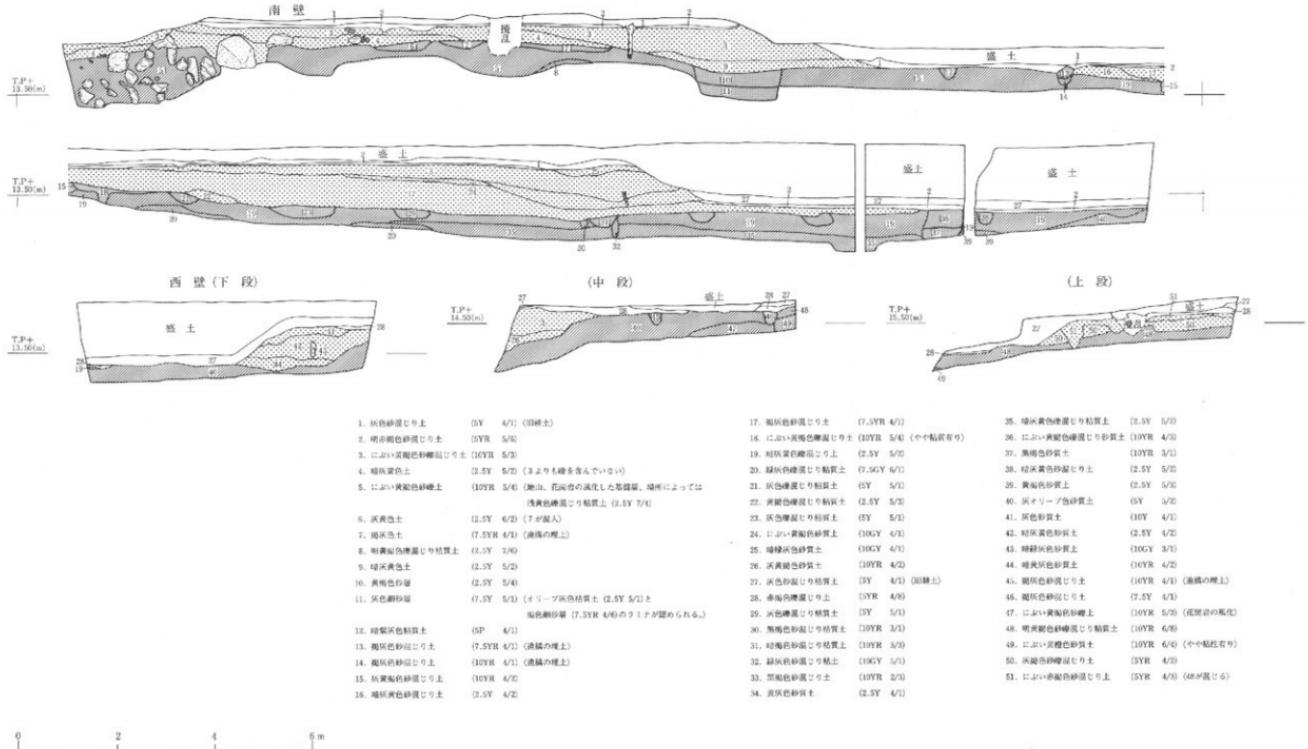
### 溝状遺構

#### S D01 (第12図)

13区北側で検出した、ほぼ北東に向かって走る溝である。幅約0.6m、深さ約0.1mを測った。内部から古式土師器、須恵器が出土した。奈良時代に比定されるものと思われる。



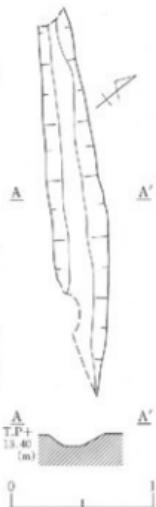
第12図 S D01、SK01、SK03遺物出土状況図



第13図 西、南壁土層断面図

#### S D02 (第14図)

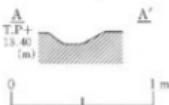
19、21区にかけて検出した、ほぼ東西に走る溝である。幅約0.4m、深さ0.1mを測った。溝の規模は東側が調査区外へと伸びるため、不明である。内部から古式土師器が出土した。古墳時代後期と思われるピットに切られていることもあり、古墳時代前～中期に比定されるものと思われる。



#### 土壤

#### S K01 (第12図)

13区で検出した土壤である。不定形状を呈し、長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.15mを測った。内部から布留式土器が数片出土した。古墳時代前～中期に比定されるものと思われる。



#### S K03 (第12図)

13区で検出した土壤である。S D01に切られているため、規模は不明であるがほぼ橢円形状を呈し、長軸1m以上、短軸0.9m、深さ0.3mを測った。内部から製塙土器、土師器、須恵器が出土した。古墳時代後期～飛鳥時代に比定されるものと思われる。

第14図 S D02  
平面図・断面図

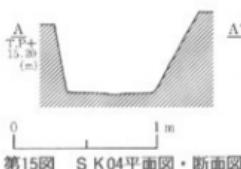
#### S K04 (第15図)

9区で検出した土壤である。橢円形状を呈し、長軸1.0m、短軸0.7m、深さ0.5mを測った。内部から製塙土器、古式土師器が出土した。古墳時代前期に比定されるものと思われる。



#### S K05 (第16図)

9、10、13区にかけて検出した落ち込み状の土壤である。不定形状を呈し、規模は調査区外、及び後世における削平のため明らかでない。深さは0.1～0.2mを測った。内部から古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代に比定されるものと思われる。



#### S K 08 (第19図)

9区で検出した土壌である。規模は調査区外に伸びるため不明である。深さは0.1mを測った。内部から古式土師器が数片出土した。古墳時代前～中期に比定されるものと思われる。

#### S K 10 (第20図)

5、9区にかけて検出した土壌である。規模は調査区外に伸びるため不明である。深さは0.15mを測った。埋土は1層で褐色砂混じり土である。内部から古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代中～後期に比定されるものと思われる。



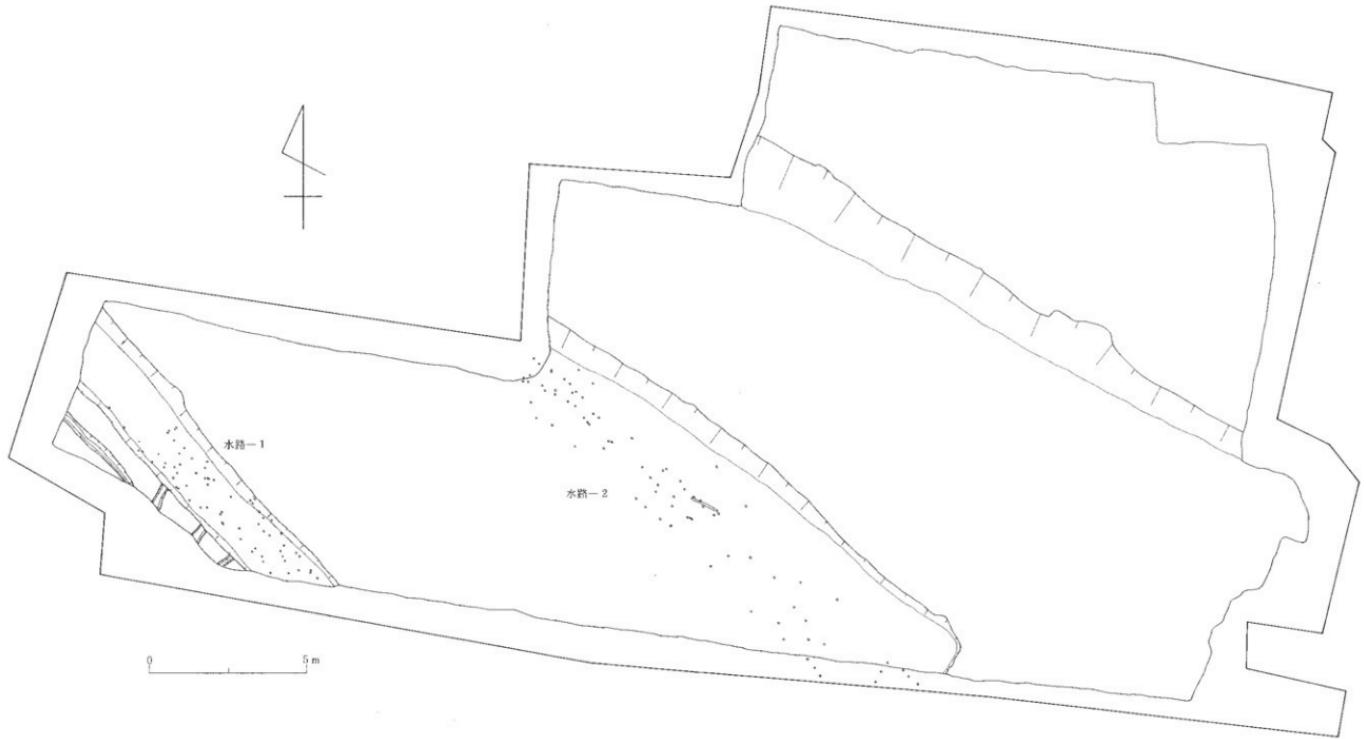
第16図 S K 05遺物出土状況図

#### S K 11 (第21図)

5、9区にかけて検出した土壌である。S K 10、S P 22に切られている。ほぼ橢円形状を呈し、長軸2.5m、短軸1.5m、深さ0.1～0.3mを測った。埋土は2層で褐色砂混じり土、黄褐色砂混じり土である。内部から製塙土器、古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代後期に比定されるものと思われる。

#### S K 12 (第22図)

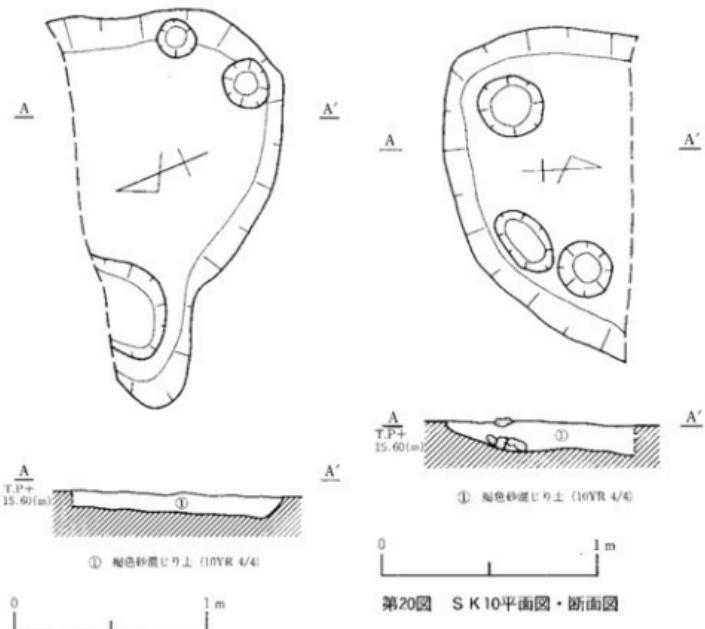
5、9区にかけて検出した土壌である。橢円形状を呈し、長軸1.7m、短軸1.1m、深さ0.5mを測った。埋土は2層で褐色砂混じり土、褐色砂疊土である。内部から古式土師器、



第17図 第1渡横面全体図



第18図 第2遺構面全体図



第19図 S K 08平面図・断面図

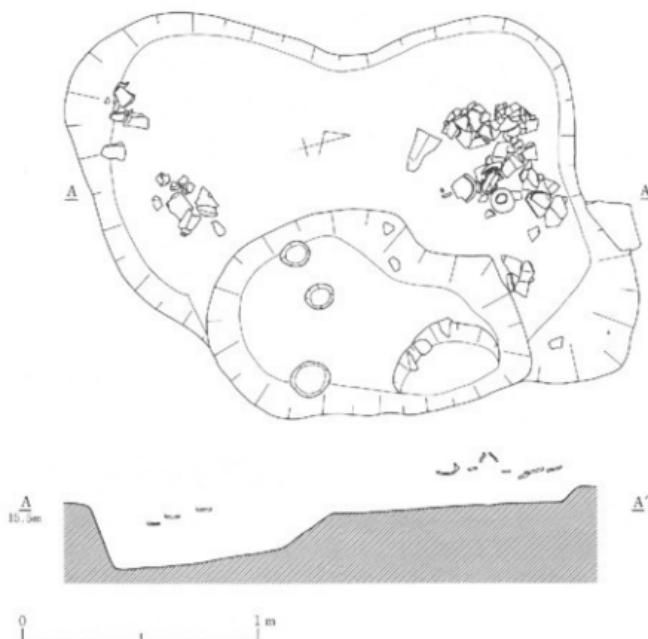
須恵器が出土した。古墳時代後期に比定されるものと思われる。

#### S K 13（第23図）

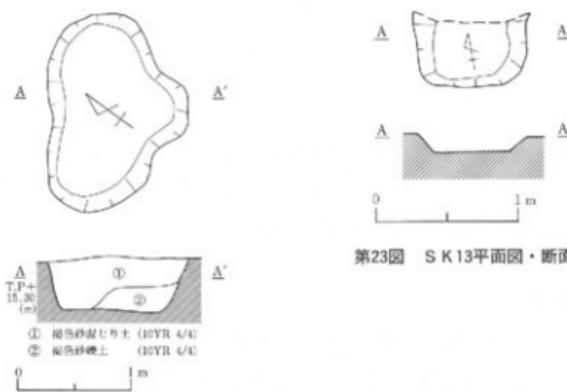
5区で検出した土壌である。規模は調査区外へと伸びているので明らかではないが、ほぼ隅丸方形を呈するものと思われる。深さは0.15mを測った。内部から古式土師器が数片出土した。古墳時代前期に比定されるものと思われる。

#### S K 23（第24図）

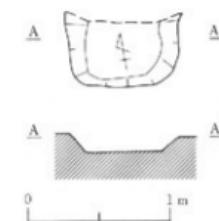
11、12区にかけて検出した土壌である。ほぼ円形を呈し、径約1.1m、深さ0.1~0.3mを測った。埋土は3層で褐色土、にぶい黄褐色微砂、明黄褐色砂礫混じり土である。内部から古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代後期に比定されるものと思われる。



第21図 SK 11遺物出土状況図



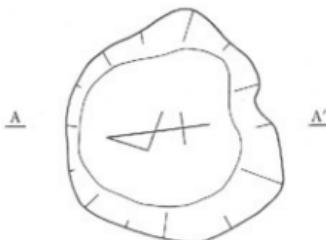
第22図 SK 12平面図・断面図



第23図 SK 13平面図・断面図

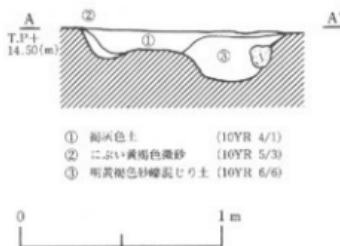
S K 26 (第25図)

4、8区にかけて検出した土壤である。規模は調査区外に伸びているため明らかでない。埋土は2層で褐色土（焼土を含む）、灰黃褐色混じり土である。内部から古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代中～後期に比定されるものと思われる。

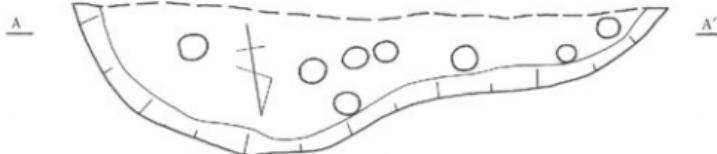


S K 28 (第26図)

16区で検出した土壤である。橢円形状を呈し、長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.3mを測った。埋土は2層で黄褐色土、暗灰黄色砂混じり土の混合層、黄灰色砂混じり粘質土である。内部から古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代後期に比定されるものと思われる。



第24図 S K 23平面図・断面図



① 褐灰色土 (5YR 4/1) に赤褐色 (5YR 5/3) の焼土を含む  
② 灰黃褐色混じり土 (2.5Y 6/6)



第25図 S K 26平面図・断面図

S K 29 (第27図)

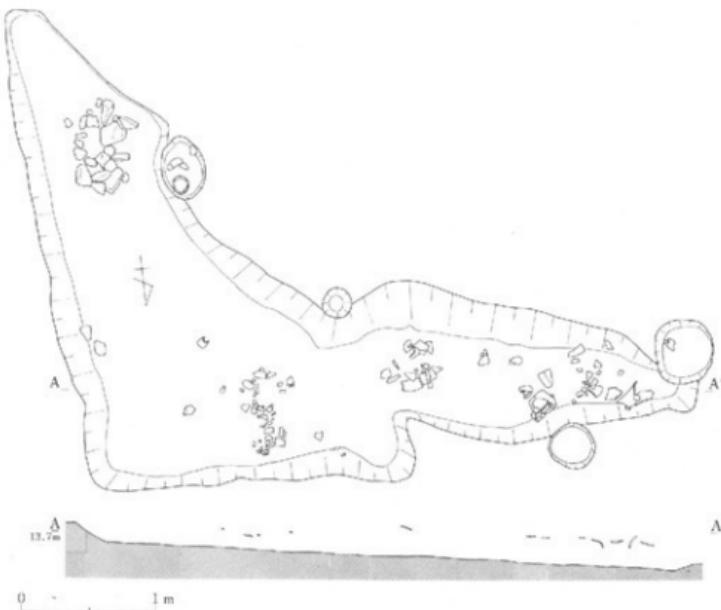
18~21区にかけて検出した土壌である。「く」の字状を呈し、最大幅約4.3m、最小幅約1.0m、深さ0.05~0.15mを測った。埋土は1層で黒褐色砂混じり土である。内部から比較的まとまった遺物が出土した。古墳時代中後期に比定されるものと思われる。



- |              |            |
|--------------|------------|
| ① 黄褐色土       | [2.5Y 5/6] |
| ② 細粒黄色砂混じり土  | [2.5Y 5/2] |
| ③ 黄褐色砂混じり粘質土 | [2.5Y 4/1] |



第26図 S K 28平面図・断面図



第27図 S K 29遺物出土状況図

### S K 32 (第29図)

21区で検出した土壙である。隅丸方形状を呈し、長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.3mを測った。内部から古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代中～後期に比定されるものと思われる。

### S K 33 (第30図)

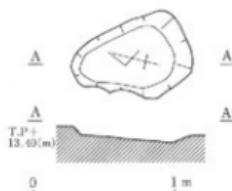
21区で検出した土壙である。椭円形状を呈し、長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.2～0.3mを測った。内部から古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代に比定されるものと思われる。

### S K 34 (第31図)

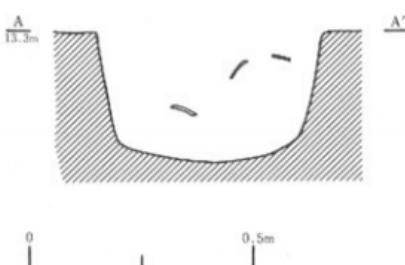
22区で検出した土壙である。不定形状を呈し、最大幅0.9m、深さ0.15mを測った。内部から弥生式土器、古式土師器が數片出土した。古墳時代前期に比定されるものと思われる。

### S K 35 (第31図)

22区で検出した土壙である。規模はS K 34に切られているため明らかでない。深さは約0.2mを測った。内部から弥生式土器、古式土師器が出土した。古墳時



第28図 S K 31平面図・断面図



第29図 S K 32遺物出土状況図

代前期に比定されるものと思われる。

#### S K 36 (第32図)

22区で検出した土壙である。ほぼ円形状を呈し、径約0.8m、深さ約0.5mを測った。埋土は4層で、褐黃灰色砂混じり土、黒褐色砂混じり土、黃灰色粘質土である。時期は不明である。



#### S K 38 (第33図)

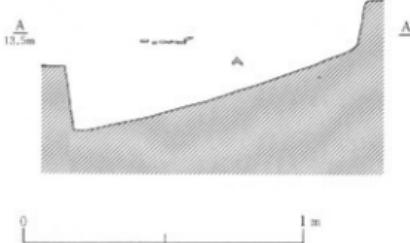
22区で検出した土壙である。ほぼ椭円形状を呈し、長軸0.4m、短軸0.2m、深さ0.1mを測った。内部から土師器、須恵器が出土した。古墳時代中～後期に比定されるものと思われる。

第30図 S K 32平面図・断面図



#### S K 41 (第34図)

24区で検出した土壙である。不整円形状を呈し、径約0.7m、深さ0.5mを測った。埋土は2層で暗灰黄色砂混じり土、灰黃褐色砂疊混じり土である。内部から土師器、須恵器が出土した。時期は不明である。



#### S K 42 (第35図)

20～23区にかけて検出した土壙である。不定形状を呈し、最大幅2.5m、深さ0.1～0.2mを測った。内部から弥生式土器、古式土師器が出土した。弥生時代後期～古墳

第31図 S K 34・35遺物出土状況図

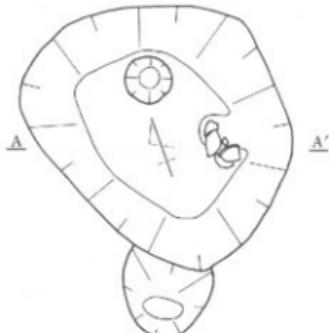
時代後期に比定されるものと思われる。

#### 掘立柱建物

今回の調査では掘立柱建物の一部と思われる遺構を検出した。以下、概略を述べる。

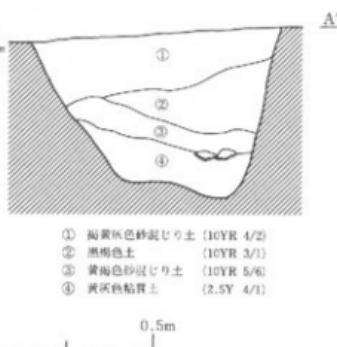
##### S B01 (第36図)

14、15、17、18区にかけて検出した。1.0m×0.7m、深さ約0.3mの柱穴跡が1列に並んでいるが、調査区外及び後世の削平により規模は不明である。しかし、柱穴跡の規模から比較的大規模な建物と思われる。柱穴跡から古式土師器、須恵器が出土した。古墳時代後期に比定されるものと思われる。



#### 掘立柱建物以外のピット

今回の調査では数多くのピットが検出されたが、大部分は性格不明のピットであった。遺物が多少出土したものがあり、図示できるものは報告した。また規模についてはピット計測表を作成した。(第3表)



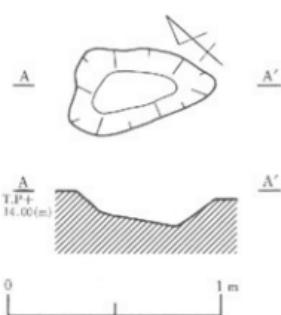
第32図 S K 36平面図・断面図

#### 水路 (第17図)

今回の調査地は段状に傾斜している状況であり、段状の境に水路を検出した。

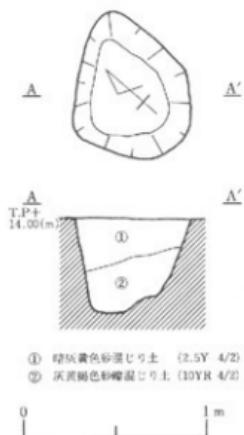
水路-1は23、24区にかけて検出され、幅約2m、深さ約0.2mで多数の杭が残されていた。染付磁器が出土しており、近世以降のものと思われる。

水路-2は12、15、18区にかけて検出され、後世の削平のため明確に残っていなかったが、多数



第33図 S K 38平面図・断面図

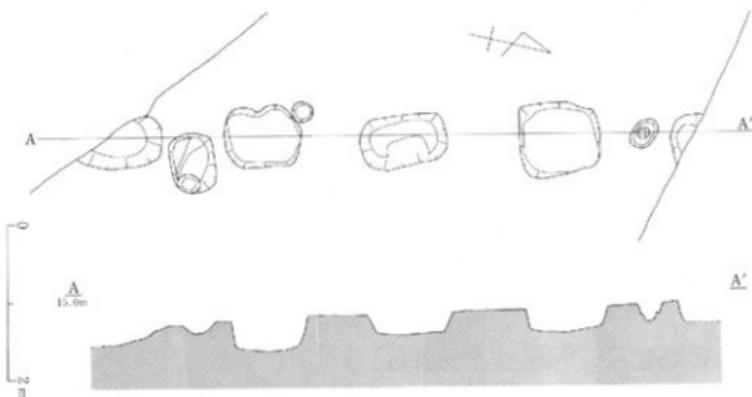
の杭が残されていた。染付磁器が出土しており、近世以降のものと思われる。



第34図 S K 41平面図・断面図



第35図 S K 42遺物出土状況図



第36図 S B 01平面図・断面図

### 3. 遺物

今回の調査では遺構に伴う遺物、また包含層からも多量の遺物が出土している。大半は土器であったが、若干の鉄製品、石製品がみられ、また土器の中でも製塩土器、韓式系土器、繩文土器等がみられた。ここではまず土器類を各遺構ごとに記述し、特筆すべき土器類には別項を設け、引き続き鉄製品、石製品について説明する。

#### S D01出土土器（第37図22）

図示したのは1点であった。22は須恵器の杯である。底部はヘラ切りで、貼り付け高台をもつ。

#### S K03出土土器（第37図23～26）

図示したのは4点であった。23、26は古式土師器の高杯である。23は口径23cm、杯部の深さ推定9cmと比較的大型である。口縁端部は丸くおさめている。24は古式土師器の甕である。25は須恵器の杯身である。色調は褐色を呈しており、いわゆる生焼きのものである。

#### S K05出土土器（第37図27～29）

図示したのは3点であった。すべて古式土師器の高杯で内面に蜜なヘラミガキを有するもの（28）がある。

#### S K10出土土器（第37図30、31）

図示したのは2点であった。すべて須恵器で杯蓋（30）である。

#### S K11出土土器（第37、38図32～37）

図示したのは6点であった。32は土師器の甕である。外面は丁寧な板ナデを施している。33は須恵器の杯蓋である。34～36は須恵器の杯身で、体部にカキ目を施すもの（34、35）があり、口縁端部は丸くおさめるもの（34、35）、内傾する凹面をもつもの（36）がある。37は須恵器の壺で、頸部及び体部上半にカキ目を施し、外面体部下半にはわずかにタタキ目が残っている。

#### S K12出土土器（第38図38、39）

図示したのは2点であった。38は弥生土器の高杯の脚部と考える。外面には蜜なヘラミガキを施している。39は須恵器の壺である。体部外面にはカキ目が施されている。

#### S K29出土土器（第38、39図、40～65）

S K29からは比較的まとめて出土している。

40は弥生土器の底部である。41～46は土師器の壺である。口縁端部は丸くおさめるもの（42、43、46）、面をつくるもの（45）、肥厚するもの（41、44）がある。47～53は土師器の高杯で、小形のもの（47、49）、大形のもの（48、50）がある。

54は須恵器の壺である。体部外面にはタタキ目を施している。56～58は須恵器で、杯蓋（56、57）、杯身（58）がある。59～62は高杯である。59は蓋で列点文を施す。61は杯部下半に把手状のものがつく。また四方にスカシを有する。63は戻の口頭部である。

64は土師器の杯になるものと考える。65は須恵器の杯で、高台を有するものである。

#### S K32出土土器（第39図65～68）

図示したのは3点であった。66は弥生土器の底部である。67、68は古式土師器の高杯である。

#### S K36出土土器（第40図69、70）

図示したのは2点であった。69は須恵器の杯身である。70は土師器の羽釜である。

#### S K38出土土器（第40図71）

図示したのは1点であった。71は土師器の瓶である。

#### S K41出土土器（第40図72）

図示したのは1点であった。72は須恵器の杯蓋である。

#### S K42出土土器（第40図73～78）

図示したのは6点であった。73～76は弥生土器で、73は蓋で中央が窪むものである。74、75は底部である。76は大形の鉢で体部は内外面ともにヘラミガキを施している。77、

78は古式土師器の甕で、いわゆる庄内式のもの（77）、布留式のもの（78）がある。

#### 掘立柱建物出土土器（第40図79～81）

これらはすべて柱穴掘形内から出土したものである。

#### S B01出土土器（79～81）

図示したのは3点であった。79は土師器の甕である。80～81は須恵器の杯身である。

#### その他のビット出土土器（第41図82～104）

掘立柱建物以外のビットからも上器が出土している。

#### S P09出土土器（82）

図示したのは1点であった。82は古式土師器の甕である。

#### S P18出土土器（83、84）

図示したのは2点であった。83は古式土師器、84は高杯と思われる。

#### S P21出土土器（85～88）

図示したのは4点であった。85は須恵器の杯蓋である。86、88は土師器で、86は甕、88は高杯の脚部である。87は黒色土器で、いわゆるB類のものである。

#### S P24出土土器（89）

図示したのは1点であった。89は黒色土器で、いわゆるA類のものである。

#### S P33出土土器（90）

図示したのは1点であった。90は須恵器の杯身である。

#### S P60出土土器（91）

図示したのは1点であった。91は古式土師器の甕である。

#### S P86出土土器（92）

図示したのは 1 点であった。92は古式土師器の壺である。

S P 116出土土器 (93)

図示したのは 1 点であった。93は土師器の小皿である。

S P 154出土土器 (94)

図示したのは 1 点であった。94は須恵器の杯身である。

S P 172出土土器 (95)

図示したのは 1 点であった。95は弥生土器で、壺あるいは壺の底部であろう。

S P 195出土土器 (96)

図示したのは 1 点であった。96は須恵器の蓋である。列点文を施す。

S P 196出土土器 (97、98)

図示したのは 2 点であった。97は土師器の小皿で、98は土師器の杯である。

S P 199出土土器 (99)

図示したのは 2 点であった。99は弥生土器の底部である。

S P 205出土土器 (100)

図示したのは 1 点であった。100は土師器の小皿である。

S P 236出土土器 (101、102)

図示したのは 2 点であった。101は須恵器の杯身であり、口縁端部は丸くおさめている。102は土師器の壺である。

S P 254出土土器 (103、104)

図示したのは 2 点であった。103は須恵器の杯身である。色調は褐灰色を呈しており、いわゆる生焼きものである。104は土師器の壺と思われるが、器壁は厚く、雑なつくりで

ある。

#### 包含層出土土器（第42、43、図105～152）

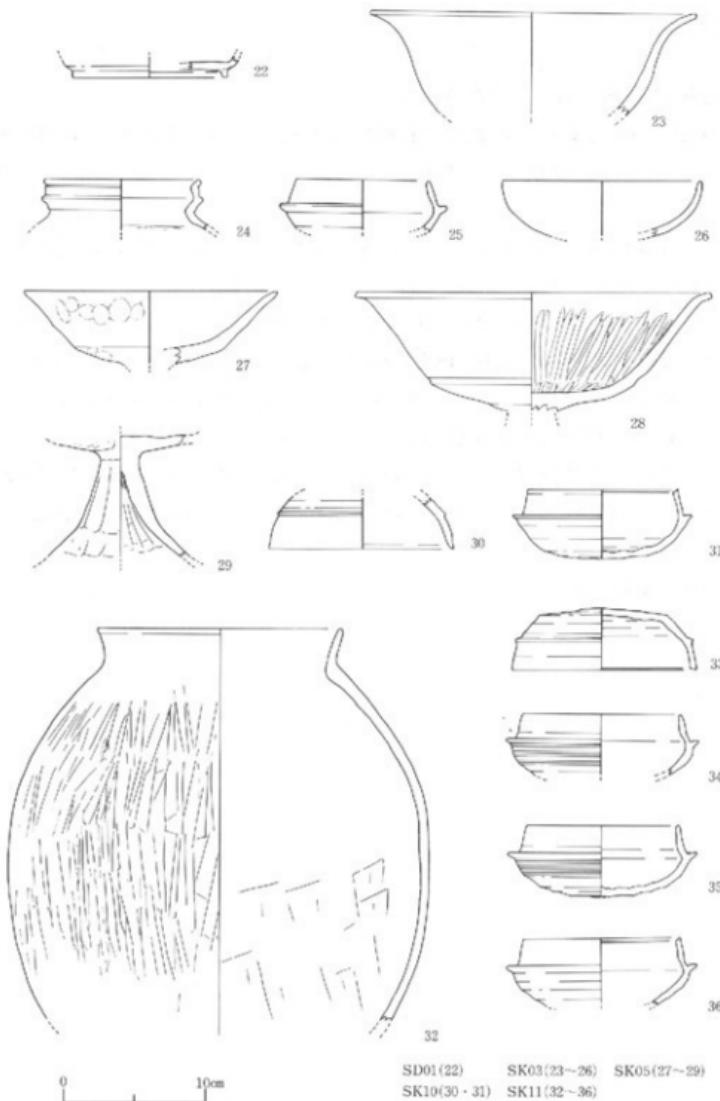
調査区において確認した堆積土層は基本層序に述べたように遺構面に達するまで多数確認した。これらの包含層からは多數の遺物が出土している。以下、出土した遺物について述べる。

105～109は古式土師器である。すべて布留式土器であるが、高杯(107)は若干さかのぼるものであろうか。またミニチュア土器(109)も出土している。

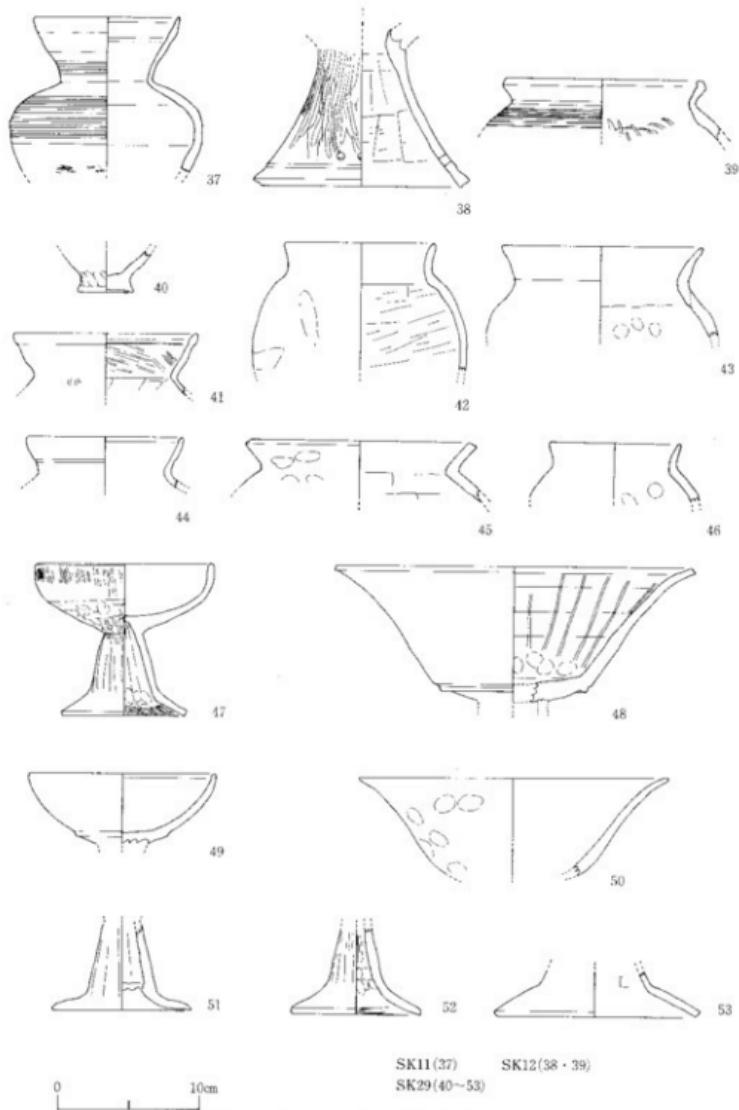
110～144は須恵器である。110～119は杯蓋であり、稜のしっかりしたもの(110～114)、不明瞭なもの(115～119)がある。120～133は杯身であり、口縁端部はすべて丸くおさめている。その他は短頸壺(134)、高杯(135～139)、(140)、高台を有さない杯(141、142)がある。143、144は杯であるが、高台を有するかは不明である。

145～150は土師器の杯であるが、体部が丸みをおびるもの(145～149)と、底部から屈曲して外方上に伸びるもの(150)がある。151は土師器の盤であり、内面に放射状の暗文を施している。

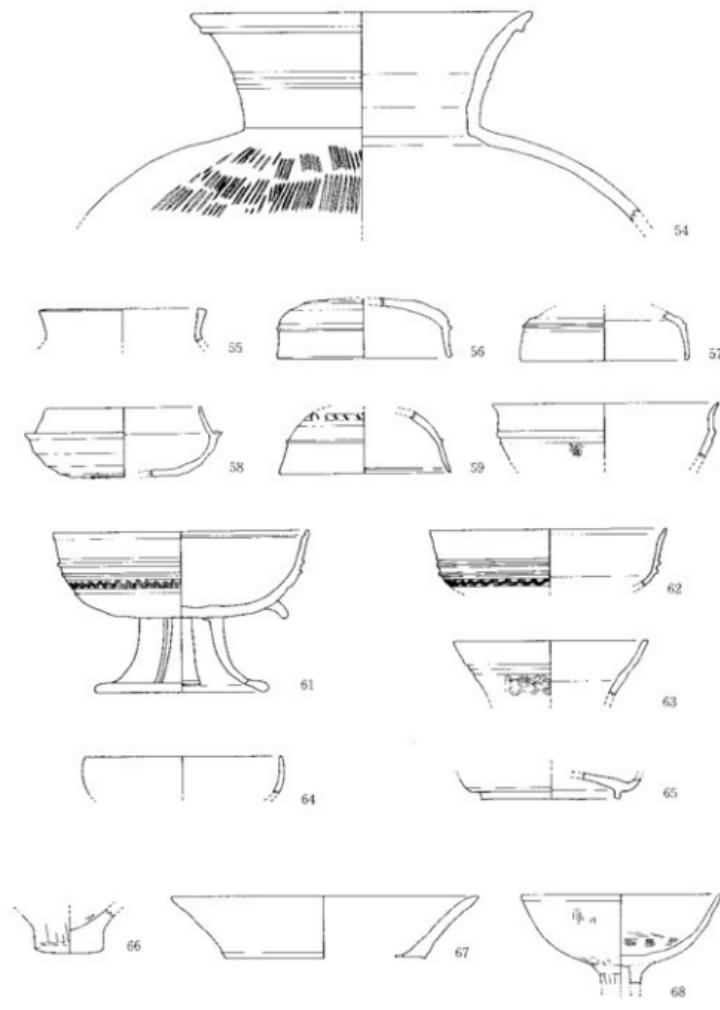
152は須恵器の蓋である。



第37図 鍋田川遺跡出土遺物実測図(1)



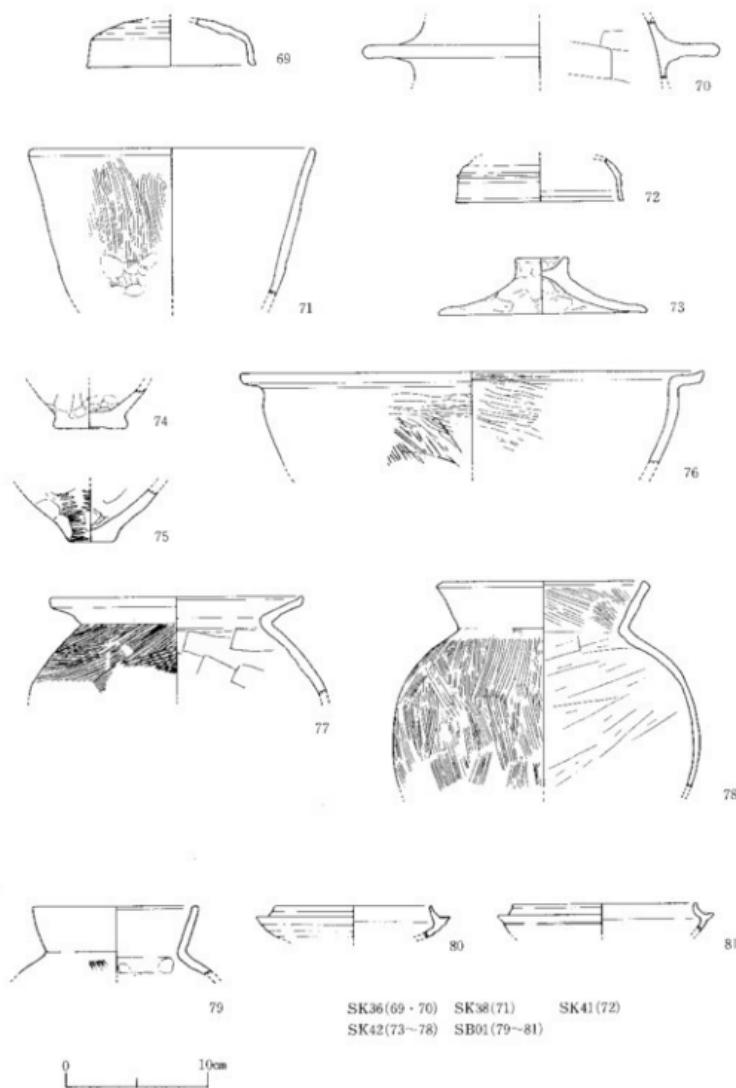
第38図 鋼田川遺跡出土遺物実測図（2）



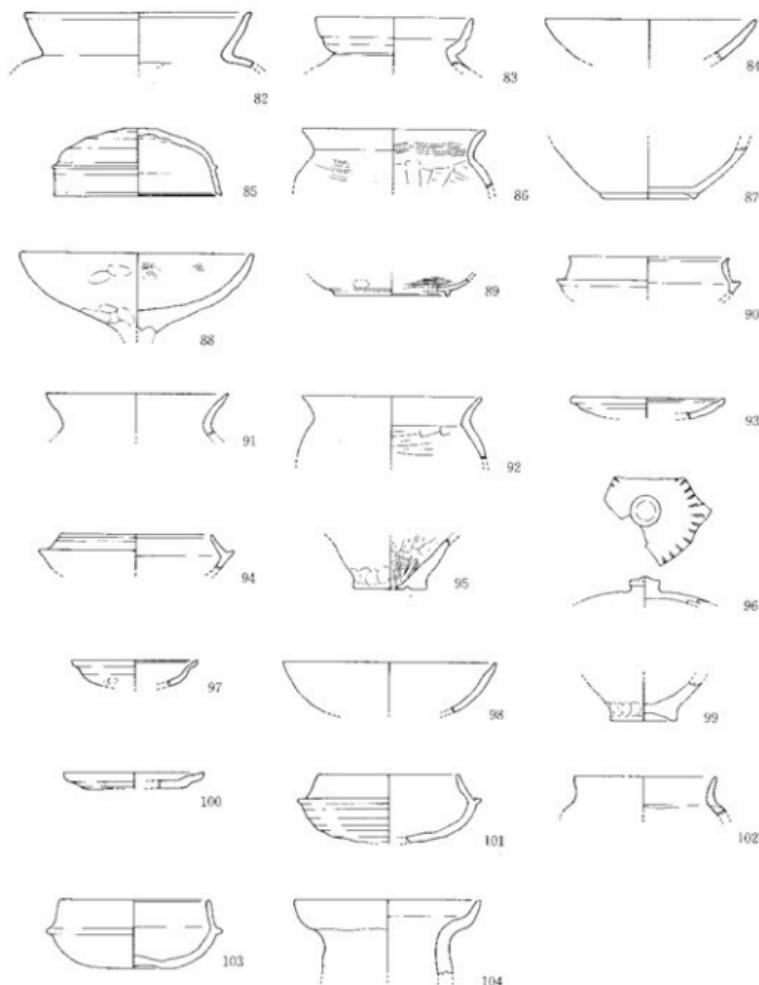
0 10cm

SK29(54~65) SK32(66~68)

第39図 鍋田川遺跡出土遺物実測図（3）

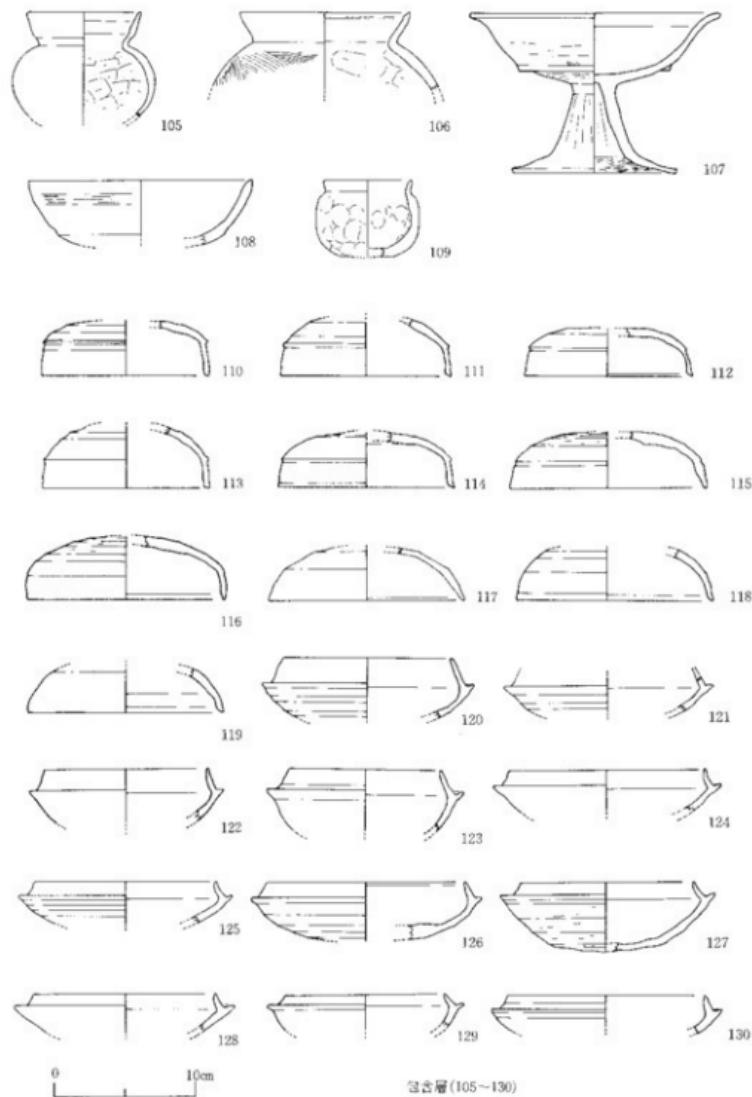


第40図 鍋田川遺跡出土遺物実測図（4）

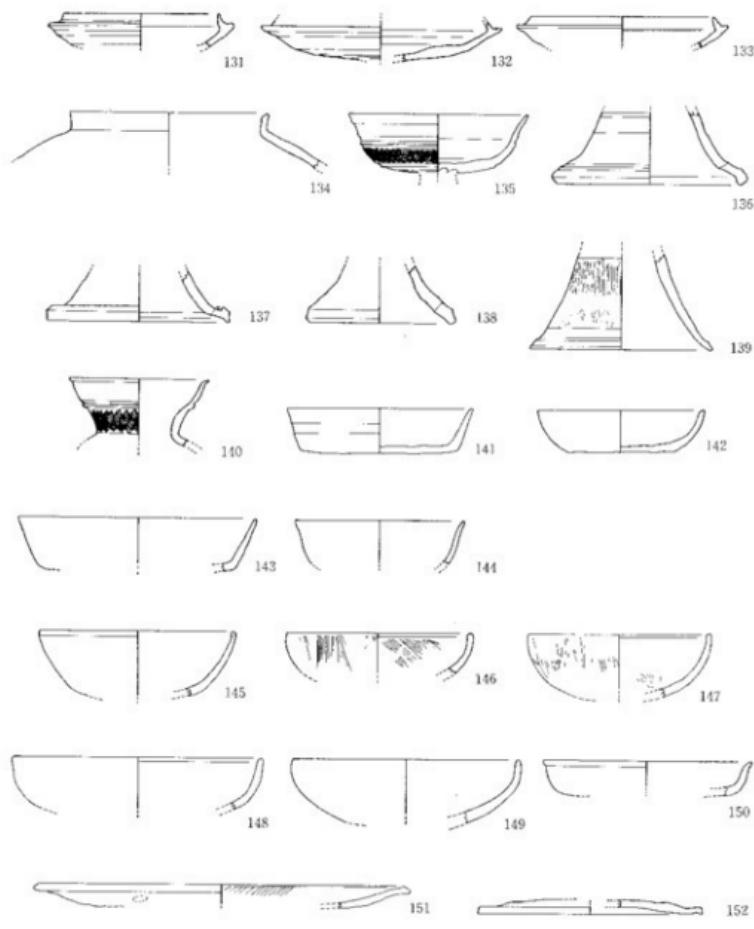


SP09 (82)	SP18 (83・84)	SP21 (85～88)	SP24 (89)
SP33 (90)	SP60 (91)	SP66 (92)	SP116(93)
SP154(94)	SP172(95)	SP196(96)	SP196(97・98)
SP199(99)	SP205(100)	SP236(101・102)	SP254(103・104)

第41図 鎌田川遺跡出土遺物実測図（5）



第42図 鍋田川遺跡出土遺物実測図（6）



第43図 鍋田川遺跡出土遺物実測図（7）

### その他の遺物

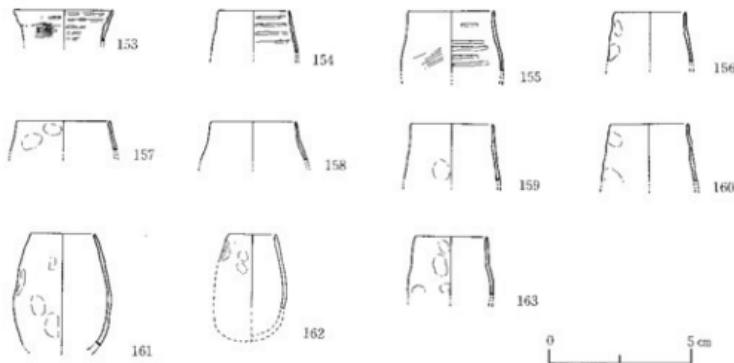
今回の調査では製塩土器、韓式系土器、縄文土器、また鉄製品、石製品が出土している。以下、これらの遺物について順次述べる。

#### 製塩土器（第44図153～163）

出土した製塩土器はいずれも細片であったが、比較的残りのよいものを図示した。

いずれも丸底の薄手のもので、形態としては底部から口縁部にかけて広がるもの(153)、底部から口縁部にかけて緩やかにすぼまるもの(154～163)がある。調整では内面にタタキを施すもの(153～155)、内外面ともに指ナデを施すもの(156～163)がある。

153～162はS K29、163は包含層からの出土である。



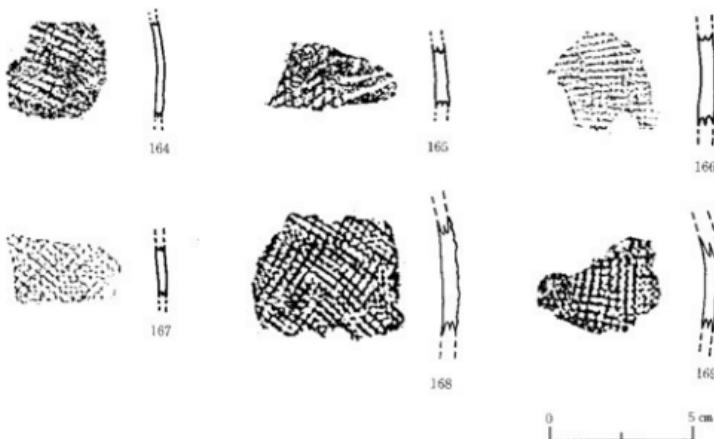
第44図 製塩土器実測図

#### 韓式系土器（第45図164～169）

今回の調査では6片が出土している。いずれも破片であるが、格子のタタキ目を施すもの(164、166～169)、斜格子タタキ目のもの(165)がある。器壁はいずれも3～5mmである。

164、165はS K05、166～169は包含層の出土である。

#### 縄文土器（第46図170～172）

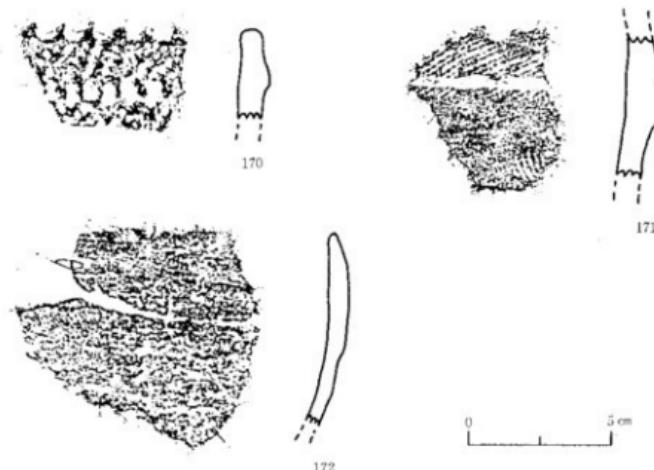


第45図 韓式系土器実測図

今回の調査では3片の縄文土器が出土している。出土地点は調査区の南西隅から遺構面を掘り下げた際に出土したものであり、詳細は残念ながら不明である。170は口唇部、口縁下部に半載竹管文を施し、また、やや粗い縄文を施すものである。時期としては早期末から前期初頭の可能性が高いと思われる。171は口縁部にLRの縄文を横に施し、下部に沈線を施す。また体部にかけての部分にはLRの縄文を縦に施している。いわゆる北白川C式に属するもので、中期後半のものである。172は粗製土器と呼ばれるもので、晩期のものである。

#### 鉄製品（第47図173）

173は鉗（鍼）先である。中央部分が欠損しているものの全体の形を復元することができた。外鷲径14.0cm、内鷲径9.5cmを測り、鉄板の幅は先端部分で1.8cm、中央付近で3.0cm、刃の厚さ5mmを測った。内側に木質部を装着するためのV字形がみられ、深さ1.9cmを測った。遺構面直上の層で検出された。

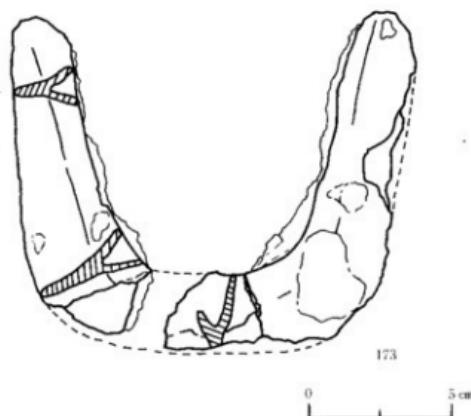


第46図 縄文土器実測図

石製品（第48図174、175）

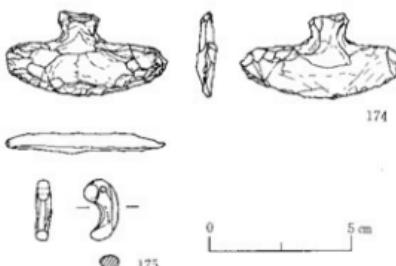
174は石匙で、背頂部につまみが付く横長タイプのものである。長さ2.9cm、最大幅11.2cm、厚さ0.7cmを測る。片面は丁寧に剝離調整を行っているが、もう片面は雑である。体部とつまみの境にえぐりを入れている。石材はサヌカイトであり、包含層からの出土である。

175は滑石製の勾玉である。長さ2.1cm、厚さ0.5



第47図 錘（鍤）先鉄製品実測図

cmを測った。体部断面は横長の橢円形で、下半が曲がり込んで「コ」の字形を呈す。頭部の孔は両面から穿孔している。盛土からの出土である。



第48図 石製品実測図

#### 4.まとめ

今回の調査は昭和33年9月の砂防堰堤工事の際に調査された以後の本格的な発掘調査であった。これまで古墳時

代の祭祀的性格の強い遺跡と考えられてきたが、今回の調査結果により、近世の水路、奈良時代のものと思われる溝、古墳時代の土壤、柱穴群、そして縄文土器も何点か出土しており、縄文～近世に至る複合遺跡であることが確認された。以下、時代別にまとめてみたい。

##### 〔近世以降〕

この地は北にある丘陵が鍋田川に向かって徐々に傾斜していく地点であり、田畠を作る際に土地の開発を行ったものと思われ、調査以前まで段状に形成されていた。そこで、現在の表土を削がれた時点でその形状が明確に現れ、段の境に水路が2基検出された。共に遺物が少なく、染付磁器が何点か出土したのみで、近世以降であろうと考える。しかし、土地を開発した割りには全面的に古い遺構が残っているので、この水路がつくられる際の開発はそれほど大規模でないことが窺われる。

##### 〔飛鳥・奈良時代〕

溝、土壤、柱穴がわずかに検出されている。しかし、包含層からは多くの遺物が出土することから、この時代の遺構面があったことも考えられる。というのは、今回の調査地のすぐ北側が寺川遺跡にあたることから、本書のN-4で述べたように寺川遺跡との関連性が強いものと思われるからである。今後の資料の蓄積を待って検討する必要性があるだろう。

##### 〔古墳時代〕

今回の調査結果の中心はやはりこの時期にあたり、前期にあたる柱穴群、中期にあたる土壤、柱穴群、後期にあたる土壤、柱穴群等、全般にわたって検出、また遺物も出土している。遺構の濃度からすると後期のものが比較的多い。柱穴群からみての掘立柱建物を考

えると前期から全般にわたって建っていたように考えられるが、後期の掘立柱建物と考えているSB01以外は明確にし得なかった。

遺物に関しては表上から、勾玉が表採されており、これまで考えられてきた祭祀的性格に関連するものであるのか興味深い。また、古墳時代の社会を考えるうえで、これまで多くの論考がなされている製塙土器、韓式系土器が破片ながらも出土している。

製塙土器は大東市域では初の出土であるが、現在、畿内で出土している遺跡は187例を数えている<sup>⑨</sup>。その中で現在は塙の生産ばかりでなく、分配、交換、消費、流通をも含めた研究が要請されており、今後、大東市域周辺における古墳時代政治・経済関係を考えるうえで重要なものであろう。

韓式系土器については6片出土したのみであるが、大東市域内では他に北条遺跡、宮谷古墳群から出土している。韓式系土器は須恵器が出現する頃の遺跡から出土が多い。この時期、当遺跡からも出土したU字形鉄製鍤（鍤）先の出現や、横穴式石室が受容されるといった半島系文化が伝播される時期で、このことから渡来人との関係がよく問題とされる。このことについて、上林史郎氏は「韓式系土器が出土する遺跡については、渡来人たちや彼らに影響を及ぼされた人々の居住域と考えたい」と述べている。<sup>⑩</sup>

のことからも韓式系土器の出土の意義は大きく、鍋田川遺跡の性格、ひいてはこの地域周辺における半島系文化の受容という古墳時代の社会を考えるうえでも重要であろう。

#### [弥生時代・縄文時代]

弥生時代の遺物は出土しているが、遺構との関連性はなく今回の調査では明確にし得なかった。しかし、当遺跡の西側に存在する中垣内遺跡との関連性が窺われる。

縄文土器は3点出土している。大東市域内では他に中垣内遺跡、城ヶ谷遺跡から共に晩期の船橋式が出土している。今回、出土したのは晩期の粗製土器、中期後半の北白川C式、それ以前のものと思われる土器と、時期がまばらであるので何とも言いがたいが、遺物が出土したことは事実である。このことからも大東市域内においても縄文時代の遺跡の存在する可能性は極めて高いものと考えている。

以上、鍋田川遺跡の概略についてまとめ、これらから波及する問題点についても若干述べてきたが、一番の成果はなんと言っても、鍋田川遺跡自体が西に広がることが確認されたことであろう。しかし、縄文～近世の複合遺跡であることは確認されたが、まだまだ遺跡の広がる可能性があり、性格についてもまだ考慮の余地がある。寺川遺跡と同様、更に調査を重ねることによって、明確にしていきたいと考えている。

註

- (1) 加藤志月 「畿内出土の『製塙土器』の分布について」  
『網干善教先生華甲記念 考古学論集』 1988
- (2) 岩本正二 「製塙土器の分布と流通」『考古学研究』27-2 1980
- (3) 『韓式系土器研究II』韓式系土器研究会 1989
- (4) 上林史郎「河内出土の韓式系土器についての覚書」  
『横田健一先生古稀記念 文化史論叢（上）』 1987
- (5) 黒田淳『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市教育委員会 1990
- (6) 黒田淳『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市教育委員会 1990

第3表 鶴田川遺跡ピット計測表

遺構番号	地区	形 状	平面規模(縦×横)	深 さ	備 考
S P - 001	13	円	36 × 34	36.3cm	
002	13	隅丸方形	42 × 30	11.5	20 × 20 49.2の柱穴あり
003	13	椭円	80 × 52	9.3	16 × 16 26.2の柱穴あり
004	13	〃	76 × 54	50.2	16 × 14 9.8の柱穴あり
005	13	〃	26 × 20	5.3	
006	13	隅丸方形	120 × 70	33.4	18 × 18 15.9の柱穴あり
007	13	〃	42 × 32	49.7	18 × 18 22.2の柱穴あり
008	9	円	30 × 30	9.5	
009	9 + 13	隅丸方形	41 × 40	13.9	16 × 16 32.5の柱穴あり
010	9	〃	58 × 13	11.9	
011	9	円	16 × 16	20.6	
012	9				不明(図面1/50になし)
013	9	隅丸方形	50 × 39	14.7	
014	9	〃	78 × 65	17.7	
015	9	円	30 × 30	29.8	
016	10	〃	27 × 27	13.2	
017	10	隅丸方形	38 × 35	23.9	18 × 14 24.5の柱穴あり
018	10		184 × 46	25.6	30 × 17 16.5の柱穴あり
019	9	隅丸方形	90 × 64	42.3	
020	9	円	18 × 14	7.3	側溝に半分削られている
021	9				不明(図面1/50になし)
022	9	不定形	130 × 96	58.3	
023	5		62 × 43	18.7	
024	5	円	79 × 74	16.7	39 × 38 20.0の柱穴あり
025	5	〃	32 × 33	38.8	
026	5	〃	34 × 33	20.8	
027	5	隅丸方形	52 × 42	12.2	21 × 21 17.1の柱穴あり
028	5	円	49 × 48	23.6	
029	5	〃	41 × 40	13.1	
030	5	〃	40 × 40	21.0	
031	5	〃	31 × 30	30.6	
032	5	〃	37 × 33	20.7	
033	5	隅丸方形	44 × 40	30.4	
034	5 + 6	椭円	25 × 20	31.0	
035	17	椭円	46 × 46	12.9	
036	17	円	64 × 60	11.8	20 × 18 7.5の柱穴あり
037	17	椭円	35 × 25	22.4	
038	17	円	26 × 26	4.9	12 × 10 4.3の柱穴あり
039	17	〃	37 × 37	9.3	18 × 14 10.4の柱穴あり
040	17	隅丸方形	76 × 64	41.8	
041	17	円	39 × 39	35.5	
042	17	隅丸方形	(38) × (30)	31.6	側溝と重なる
043	17	椭円	41 × 30	22.7	13 × 12 9.6の柱穴あり

遺構番号	地区	形状	平面規模(縦×横)	深さ	備考
044	17	円	69 × 60	40.4	29×28 20.7の柱穴あり
045	17	隅丸方形	101 × 91	32.0	
046	17		103 × 80	54.2	
047	17	円	43 × 40	24.4	21×21 22.8の柱穴あり
048	17	"	41 × 40	36.8	
049	17	椭円	79 × 53	39.0	41×22 23.6の柱穴あり
050	17	円	30 × 30	13.5	
051	14・17	隅丸方形	105 × 68	26.3	
052	14	椭円	30 × 20	24.3	
053	14	円	22 × 20	11.6	
054	14	"	22 × 22	10.7	
055	14	"	24 × 24	39.9	
056	14	隅丸方形	100 × 70	44.1	
057	14		118 × 83	42.2	
058	14		118 × 83	42.2	↓くっついている
059	14	円	53 × 50	29.8	28×18 20.8の柱穴あり
060	14	"	60 × 60	38.1	
061	14	隅丸方形	60 × 60	33.7	20×30 30.7の柱穴あり
062	15	"	75 × 55	44.7	30×20 14.2の柱穴あり
063	14	円	30 × 30	23.0	10×10 の柱穴あり
064	15	椭円	(70) × (45)	7.8	
065	15	円	15 × 15	12.5	
066	14	"	25 × 25	27.7	
067	14	隅丸方形	50 × 45	33.5	
068	14	椭円	28 × 20	12.9	
069	14	円	20 × 20	10.9	
070	14	"	25 × 25	11.0	
071	14	"	50 × 47	32.2	
072	14	"	20 × 20	10.9	
073	14	"	32 × 30	16.2	
074	14	"	44 × 42	22.6	
075	14	"	26 × 26	1.7	
076	15	隅丸方形	42 × 40	41.2	28×14 36.2の柱穴あり
077	15	円	42 × 38	27.6	20×16 17.7の柱穴あり
078	15	"	26 × 24	11.3	
079	15	椭円	44 × 36	29.0	
080	15	隅丸方形	54 × 50	8.0	
081	15	円	32 × 28	17.4	14×14 13.4の柱穴あり
082	15	"	24 × 20	16.6	
083	15	"	68 × 58	32.4	32×30 15.3の柱穴あり
084	15	椭円	60 × 50	15.3	
085	14	円	40 × 38	33.5	
086	14	隅丸方形	70 × 56	32.6	

遺構番号	地区	形状	平面規模(縦×横)	深さ	備考
087	10・14	円	26 × 26	17.0	
088	14	隅丸方形	40 × 36	29.0	
089	10	円	40 × 34	25.4	
090	10		44 × 26	26.1	
091	11	円	20 × 20	19.3	
092	15	椭円	44 × 36	22.8	
093	11・15		36 × 22	22.2	12×10 11.0の柱穴あり
094	11	円	26 × 22	19.3	
095	11	〃	36 × 30	10.2	
096	11	〃	52 × 48	32.5	
097	11	〃	36 × 30	12.8	
098	11	〃	40 × 36	19.4	30×20 8.9の柱穴あり
099	11	椭円	46 × 34	33.4	16×14 11.4の柱穴あり
100	10	円	28 × 22	19.9	
101	10	〃	42 × 38	44.1	
102	10	〃	30 × 28	33.8	
103	10	〃	30 × 28	17.1	
104	9・10				不明(図面1/50になし)
105	10				不明(図面1/50になし)
106	10				不明(図面1/50になし)
107	10	円	35 × 35	13.3	
108	10	〃	25 × 24	7.3	
109	10	〃	25 × 22	17.0	
110	10	〃	16 × 16	5.8	
111	10	〃	29 × 29	14.2	
112	6	〃	22 × 22	10.6	
113	6				不明(図面1/50になし)
114	6		113×90	34.4	
115	11	円	46 × 42	4.7	26×22 15.2の柱穴あり
116	11	〃	26 × 26	5.7	21×18 17.1の柱穴あり
117	12	〃	17 × 16	14.6	
118	12	円	22 × 22	18.4	
119	12		76 × 40	47.8	中段と下段の境に削られている
120	12	椭円	43 × 25	19.3	中段と下段の境に削られている
121	8・12	〃	41 × 40	25.1	中段と下段の境に削られている
122	8		60 × 24	12.8	中段と下段の境に削られている
123	8	隅丸方形	58 × 56	15.8	
124	8	椭円	20 × 16	13.5	中段と下段の境に削られている
125	8	〃	27 × 22	18.7	
126	8	円	23 × 17	24.0	側溝に削られている
127	8	〃	23 × 23	10.4	
128	8	〃	25.5 × 24	28.6	
129	8	〃	28 × 26	22.9	

浪 構 番 号	地 区	形 状	平 面 規 模 (縦×横)	深 さ	備 考
130	8	タ	35 × 32	23.4	
131	7				不規 (圓面1/50になし)
132	8	円	29 × 29	21.7	
133	8	椭円	34.5 × 26	18.9	
134	4	タ	43 × 25.5	13.5	
135	4	円	26 × 24	6.5	
136	4	円	37.5 × 32.5	30.9	15×15 9.0の柱穴あり
137	4	円	27.5 × 24	13.7	
138	4	椭円	(40) × 32.5	10.1	S K26と切り合う
139	7	タ	65 × 45	29.9	
140	8	円	32 × 30	15.3	
141	8	椭円	41 × 25	13.5	
142	4	円	35 × 30.5	17.8	25×16の柱穴あり
143	3	椭円	50 × 28	34.3	
144	3	円	40 × 35	16.2	
145	3	タ	43 × 37	11.1	
146	3	タ	34 × 30	27.0	
147	3	タ	40 × 35	26.2	
148	3	不定形	55 × 31	19.2	
149	3	円	30 × 28	12.8	
150	12	椭円	34 × 28	18.0	側溝に削られている
151	16	タ	44 × 29	31.3	側溝に削られている
152	16	円	22 × 20	10.2	
153	16	タ	75 × 24	24.6	側溝に削られている 20×7 12.1の柱穴あり
154	15・19	タ	66 × 60	24.4	28×28 7.2の柱穴あり
155	19	タ	34 × 28	10.8	10×10 7.8の柱穴あり
156	19	椭円	45 × 25	32.2	
157	21	円	40 × 34	18.9	
158	21	タ	44 × 33	16.1	側溝に削られている
159	21	タ	43 × 43	13.5	
160	21	タ	27 × 23	19.0	
161	21	タ	23 × 21	23.1	
162	21	タ	30 × 29	23.5	
163	21	タ	25 × 20	5.2	
164	21	タ	39 × 34	29.0	
165	21	タ	45 × 42	26.4	側溝に削られている
166	21	タ	50 × 49	8.8	18×16 15.4の柱穴あり
167	21	椭円	26 × 20	12.2	
168	20	円	24 × 23	8.9	
169	20	タ	24 × 16	12.0	側溝に削られている
170	20	タ	21 × 20	28.7	
171	21	タ	22 × 19	16.7	
172	21	椭円	42 × 32	22.0	

遺構番号	地区	形狀	平面規模(縦×横)	深さ	備考
173	21	円	48 × 46	27.5	
174	21	椭円	56 × 41	19.4	
175	21	円	49 × 45	12.4	
176	21	〃	33 × 31	25.5	
177	21	椭円	46 × 38	28.4	18×18 6.3の柱穴あり
178	21	円	21 × 19	44.6	
179	23	〃	25 × 25	36.3	
180	23	椭円	59 × 42	8.7	22×20 4.4の柱穴あり
181	23	円	30 × 30	38.4	
182	21	〃	26 × 24	15.0	
183	21	〃	20 × 20	14.5	
184	20	〃	14 × 12	9.0	
185	20	〃	25 × 24	18.0	
186	20		24 × 16	35.7	S K36に削られている
187	20+22	円	20 × 20	8.8	
188	22	不定形	54 × 15	6.5	側溝に削られている
189	22	円	16 × 15	11.6	
190	22	椭丸方形	72 × 68	15.0	
191	22	円	24 × 22	12.4	
192	22	椭円	21 × 18	7.4	
193	22	〃	26 × 24	13.8	
194	22	椭丸方形	23 × 24	14.7	
195	22	〃	55 × 48	60.6	
196	24	椭丸方形	20 × 19	24.7	
197	24	椭円	37 × 24	20.8	
198	24	円	21 × 20	38.1	
199	23	椭丸方形	80 × 77	44.6	
200	23	椭円	37 × 24	20.8	
201	24	〃	27 × 14	18.3	
202	24	円	21 × 20	7.8	
203	23	椭円	42 × 27	9.7	
204	23	不定形	96 × 21	39.3	側溝に削られている
205	23	円	59 × 22	41.4	側溝に削られている
206	23	〃	32 × 28	17.6	
207	23	〃	23 × 19	7.7	
208	23	〃	18 × 9	6.6	S P209に削られている
209	23	〃	21 × 20	31.1	
210	23	〃	26 × 23	13.7	
211	23	椭丸方形	54 × 46	21.2	
212	23	円	23 × 19	9.9	
213	23	椭丸方形	58 × 54	26.5	側溝に削られている
214	23	椭円	40 × 30	9.8	
215	23	円	50 × 45	19.0	27×18 2.3の柱穴あり

遺構番号	地区	形 状	平面規模(縦×横)	深 さ	備 考
216	23	〃	22 × 21	12.5	
217	23	〃	26 × 25	14.2	
218	23	〃	52 × 48	20.7	
219	21	精円	48 × 36	13.4	
220	19・21	隅丸方形	57 × 48	20.7	15×15 19.3 14×14 19.3の柱穴あり
221	19	円	30 × 28	15.2	
222	19	円	20 × 20	未掘削	
223	16			不明	
224	23	精円	26 × 22	14.5	不明
225	12	円	15 × 14	不明	
226	12	隅丸方形	72 × 56	不明	
227	11			不明	
228	12	不定形	21 × 15	不明	
229	16			不明	
230	18			不明	
231	16	精円	60 × 21	不明	
232	23			不明	
234	23			不明	
235	19	円	25 × 25	16.6	不明
236	19・21	不定形	50 × 20	35.5	
237	21	隅丸方形	70 × 60	20.8	
238	21	円	20 × 20	4.5	
239	21	〃	20 × 20	2.7	
240	21	不定形	35 × 20	13.4	
241	21	円	35 × 35	31.6	
242	21	隅丸方形	60 × 50	25.8	
243	23	円	10 × 10	23.0	
244	23	〃	20 × 20	29.0	
245	22	〃	15 × 15	11.7	
246	23	〃	20 × 20	23.0	
247	23	精円	20 × 15	26.4	
248	22	円	20 × 20	7.7	
249	22	〃	30 × 30	16.6	
250	23	〃	20 × 30	7.2	
251	22	〃	20 × 20	16.4	
252	22	〃	15 × 15	4.8	
253	22	〃	20 × 20	11.4	
254	19	〃	50 × 50	22.8	
255	19	〃	30 × 30	18.6	
256	19	〃	15 × 15	4.9	
257	21		80 × 55	23.6	

第4表 鍋田川遺跡出土遺物観察表

番号	基 標	出土地点	法 量	胎土・焼成・色調	口 線 部	体 部	底 部	備 考
22	杯	S D-01	底周径：11cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰褐色		外腹：回転ナデ	内面回転ナデ 外面：へら切り	直筒器
23	高杯	S K-03	口径：23cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰褐色		内外面共表面磨耗の為 調整不明		土器器
24	甕	S K-03	口径：11cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰灰色	ヨコナデ	外腹：ナデ 内腹：へら削り		弥生式土器
25	杯	S K-03	口径：9.5cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：褐色				直筒器 (生き焼き)
26	甕(浅)	S K-03	口径：14cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：褐色	ヨコナデ	内外面共表面剥離の為 調整不明(ナデと思わ れる)		上部器
27	高杯	S K-06	口径：18cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：淡茶褐色	ヨコナデ	外腹：指さきエ 内腹：表面磨耗の為調 整不明		古式土器類
28	高杯	S K-06	口径：25cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：暗赤褐色	ヨコナデ	外腹：表面剥離の為調 整不明 内腹：ヘラミガキ		古式土器類 生側面磨耗
29	高杯	S K-06		胎土：素 焼成：良好 色調：褐黃色	(杯部) 胎土：へら削り 内腹：ナデ	(瓶部) 外腹：へら削り 内腹：へばり日へら削 り		土器器
30	杯蓋	S K-10	口径：13cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰青色	ヨコナデ	外腹：へら削り (下部)回転ナゲ 内腹：ナデ		直筒器
31	甕	S K-10	口径：10.6cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰青色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ	外腹：回転へら 削り	直筒器
32	短頸甕	S K-11	口径：17cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：淡茶褐色	ヨコナデ	外腹：へら削り 内腹：(上部)表面磨耗 の為調整不明 (下部)へら削り		古式土器類 生側面磨耗
33	杯蓋	S K-11	口径：13cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰青色	ヨコナデ	外腹：(上部)回転へら 削り (下部)回転ナゲ 内腹：ナデ		直筒器
34	甕	S K-11	口径：11cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰褐色	ヨコナデ	外腹：(上部)回転ナゲ (中部)カキ目 (下部)回転へら 削り 内腹：回転ナデ		直筒器
35	杯	S K-11	口径：10.6cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰青色	ヨコナデ	外腹：ヨコナデ(カキ 目を施す) 内腹：回転ナデ	外腹：回転へら 削り	直筒器
36	甕	S K-11	口径：11cm (復元)	胎土：素 焼成：やや甘い 色調：(外)赤褐色 (内)芯に赤い赤 褐色	ヨコナデ	外腹：(上部)回転ナゲ (下部)回転へら 削り 内腹：へら削り 内腹回転ナデ		直筒器
37	甕	S K-11	口径：10.4cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰青色	ヨコナデ	外腹：(上部)回転ナゲ (カキ目を施す) (下部)ダマキ 内腹：回転ナデ		直筒器
38	蓋台	S K-12	周部径：14cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰褐色	ヨコナデ	外腹：ヘラミガキ 内腹：へら削り		弥生式土器 2. 扇内側 がある
39	甕	S K-12	口径：14cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰褐色	ヨコナデ、回転 ナゲ	外腹：カキ目化施す 内腹：青釉皮		直筒器
40	甕	S K-29 土器群A	底周径：4cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：灰褐色		外腹：ナゲ(指さきサユ を施す) 内腹：ナゲ	端部を削りひね り出す	弥生式土器 V種式
41	甕	S K-29 土器群C	口径：13cm (復元)	胎土：素 焼成：良好 色調：淡褐色	ヨコナデ	外腹：ヨコナデ(わざ かにはけ目が残 る) 内腹：(上部)ハケ目を 施す (下部)へら削り		古式土器類 手作業による 生側面磨耗 (?) 角削りを含む

番号	器種	出土地点	底 番	胎土・焼成・色調	口 番	部	底 部	備考
42	壺	S K-29 土器群C	口径: 10.4cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	外腹: ハラナデ 内面: ハラ削り		古式土師器 生駒西腰周
43	壺	S K-29 土器群A	口径: 11cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	外腹: ナデ 内面: ナデ(指オサエ の痕跡)		古式土師器
44	壺	S K-29 土器群A	口径: 11cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	内外面ナデ		古式土師器
45	壺	S K-29 土器群A	口径: 16cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: (れ)褐色 (内)黑色灰色	ヨコナデ	外腹: ナデ(指オサエ の痕跡) 内面: ナデの後ヘラ削 り		土師器 生駒西腰周
46	壺	S K-29 土器群A	口径: 9cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ(内面に 指オサエの痕跡)		古式土師器
47	高杯	S K-29 土器群A	口径: 12.2cm (復元) 底径: 8.6cm 高さ: 11cm	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	(底部) 外腹: (口縁)ハ ケ目(後 ナデ) (上部)ナ デ (中部)指 オサエの 痕ヘラ削 り (下部)指 オサエの 後ハケ目 内面: ナデ	(側部) 外腹: (上部)ハ ケ目(後 ナデ) (中部)ハ ラ削り (上部)し ばり目 (中部)ハ ラ削り (下部)指 オサエ	外面: ヨコナデ 内面: 指オサエ の後ハケ目	土師器 布留式土器 時代古期
48	高杯	S K-29 土器群A	口径: 25.2cm (復元)	胎土: 黒(2cm内外 の石片を含む) 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	外面: 実面斜削 の為、 頭部不規 則 内面: 回転ナデの後、 筆文を施す	内面: 指オサエ 古式土師器 生駒西腰周 角閃石、黑 英石を 含む	
49	高杯	S K-29 土器群A	口径: 13.2cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	内外面共ナデで丁寧に 仕上げる		古式土師器
50	高杯	S K-29 土器群A	口径: 22cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	外面: ナデの後、指オ サエ 内面: ナデ		古式土師器 生駒西腰周 (?)
51	高杯	S K-29 土器群A	口径: 10cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色		内外面共わざかにヘラ 削りの痕跡	内外面共ヨコナ デ	古式土師器 柱状器と圓 盤の間に明 確な接合部 を有する。
52	高杯	S K-29 土器群A	口径: 9cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色		外面: (上部)ハ ケ目 (下部)ハ ラ削り 内面: (上部)しばり目 (下部)指オサエ	内面にハケ目	古式土師器
53	高杯	S K-29 土器群A	口径: 14cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色		外面: ナデ 内面: ナデ(ハ ラ削りの 痕跡がわざか に残る)	内外面共ヨコナ デ	古式土師器
54	壺	S K-29 土器群A	口径: 24cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	外面: ダタキ 内面: 不規則なナデ		須恵器
55	不明	S K-29 土器群A	口径: 12cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ		須恵器	
56	杯蓋	S K-29 土器群A	口径: 12cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	外面: (上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナデ 内面: 回転ナデ		須恵器
57	杯蓋	S K-29 土器群C	口径: 12cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	外面: (上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナデ 内面: ヨコナデ		須恵器
58	杯	S K-29 土器群C	口径: 11cm (復元)	胎土: 黒 焼成: 良好 色調: 茶褐色	ヨコナデ	外面: (上部)回転ナデ (下部)回転ヘラ 削り 内面: 回転ナデ		須恵器

番号	器種	出土地点	法量	胎土・焼成・色調	口株部	体部	底部	備考
59	杯盤	SK-29 土器群A	口径：12cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：灰青色	ヨコナゲ	外側：(上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナゲ 内面：回転ナゲ		復原器 スタンダードの文を有する
60	高杯	SK-29 土器群A	口径：16cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：暗灰色	ヨコナゲ	内外表面回転ナゲ		復原器 内面に復元文を有する
61	高杯	SK-29 土器群C	口径：18cm (復元) 底直径：11.6cm 髙さ：11.6cm	胎土：褐 燒皮：良好 色調：暗灰青色	(杯部) 口径：ヨコナゲ 内面表面回転ナゲ	(胴部) 内外表面回転ナゲ	ヨコナゲ	復原器 長方形のすかし4ヶ所 押切部に突起部 杯部外側に 波状文
62	高杯	SK-29 土器群C	口径：17cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：灰褐色	ヨコナゲ	内外表面回転ナゲ		復原器 外側に復元文を有する
63	盆	SK-29 土器群A	口径：14cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：灰色	ヨコナゲ	内外表面回転ナゲ		復原器 外側に復元文を有する
64	碗	SK-29 土器群A	口径：12cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：黄褐色	ヨコナゲ	内外表面ナゲ		土器群
65	杯	SK-29 土器群A	口径：10cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：灰青色		外側：回転ナゲ	外側：ヨコナゲ 内面：回転ナゲ	復原器
66	釜	SK-32	口径：5cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：灰褐色		外側：ヘラ削り	内面：ひざかん ヘラミガキの痕跡	野生式土器
67	不明	SK-32	口径：22cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：灰褐色	ヨコナゲ	内外表面ナゲ		土器群
68	高杯	SK-32	口径：14.2cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：明褐色	(杯部) 口径：ヨコナゲ 外側：(上部)ハ ケ目(後 ナゲ) (下部)ヘ ラ削り 内面：(上部)ナ ゲ (下部)ハ ケ目 (底部)ナ ゲ	(胴部) 外側：ヘラ削り 内面：調整不明		古式土器部 生器西蕃器 杯部外側下部に崩壊部 はつけた 痕跡
69	杯盤	SK-36	口径：12cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：青灰色	ヨコナゲ	外側：(上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナゲ 内面：回転ナゲ		復原器
70	羽茎	SK-36	口径：26.1cm	胎土：褐 燒皮：良好 色調：褐褐色	外側：ナゲ	内面：ヘラ削り		土器群
71	不明	SK-38	口径：20cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：褐灰色	ヨコナゲ	外側：(上部)ハケ目 内面：(下部)削オサエ	外側に2次焼成 を行なう 全表面を多量に 食む	
72	杯盤	SK-41	口径：12cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：暗青灰色	ヨコナゲ	内外表面回転ナゲ		復原器
73	裏盤	SK-42	口径：15cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：灰黄色	ヨコナゲ	外側：(上部)削オサエ (下部)ヘラ削り 内面：(上部)削オサエ (下部)ヘラ削り	野生式土器 裏盤部に削 オサエを有 する	
74	不明	SK-42	底直径：5cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：灰褐色		外側：ヘラ削り 内面：削オサエ	外側：ヘラ状の 物で調整 野生式土器 を2次 焼成を受ける	
75	不明	SK-42	底直径：3cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：黑褐色 (内)灰黄色		外側：タキ目 内面：ヘラ削り	外側：ヘラ状の 物で調整	野生式土器
76	不明	SK-42	口径：32cm (復元)	胎土：褐 燒皮：良好 色調：灰黄色	ヨコナゲ	外側：ヘラ削りの後 状の物でアゲた 痕跡 内面：ヘラ削り		野生式土器 底部を有する

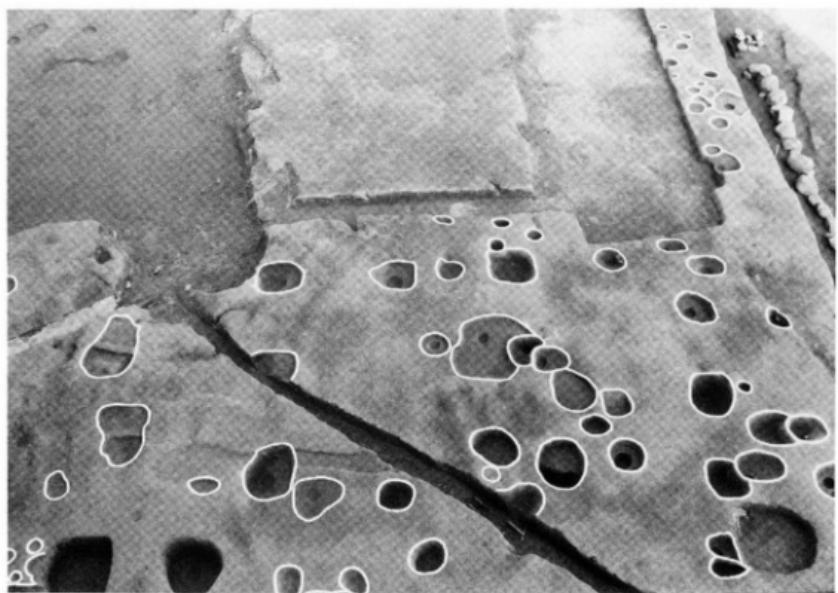
番号	器種	出土地点	形 型	胎土・焼成・色調	口 端 部	体 部	底 部	考
77	甕	S K-42	口径：16cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：(外)淡褐色 (内)茶褐色	ヨコナデ	外面：タチト目 内面：ヘラ削り		古式土師器 生陶西施面
78	甕	S K-42	口径：14.4cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：(外)淡褐色 (内)茶褐色	ヨコナデ	外面：あらいハケ目 内面：(上部)ハケ目 燒成：良好 色調：(外)淡褐色 (内)茶褐色	内面：ヘラ削り (下部)ヘラ削り	古式土師器 内外面に2 次焼成を受ける
79	甕	S P-64	口径：12cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：茶褐色	ヨコナデ	外面：ハケ目 内面：ヘラ削り		土師器(陶 器?)
80	杯	S P-42	口径：11cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：灰青色				須恵器
81	杯	S P-51	口径：13cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：青灰色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		須恵器
82	不明	S P-09	口径：16cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：淡褐色	ヨコナデ	外面：ナデ 内面：ヘラ削り		古式土師器
83	甕	S P-18	口径：11cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：茶褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		生土器
84	杯(碗)	S P-18	口径：15cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：(外)淡褐色 (内)赤褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土師器
85	杯	S P-21	口径：11.8cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：暗灰青色	ヨコナデ	外面：(上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナデ 内面：回転ナデ		須恵器
86	甕	S P-21	口径：13cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：(外)茶褐色 (内)茶褐色	ヨコナデ	外面：ハケ目 内面：(上部)ハケ目 (下部)ヘラ削り		土師器
87	黑色土器 日類	S P-31	口径：6.4cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：黑灰褐色				
88	高杯	S P-21	口径：16.6cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：褐黃色	ヨコナデ	外面：(上部)ナデ (下部)ガオナエ 内面：(上部)ハケ目 (下部)ナデ		土師器
89	黑色土器 A類	S P-24	口径：8cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：(外)灰褐色 (内)茶褐色		外面：ナデ 内面：ヘラミガキ	内外面共ヨコナデ	
90	杯	S P-33	口径：11cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：茶褐色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		須恵器
91	甕	S P-60	口径：13cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：灰褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土師器 金雲母を含む
92	甕	S P-86	口径：12.5cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：灰褐色	ヨコナデ	外面：ナデ 内面：ヘラ削り		古式土師器
93	小皿	S P-116	口径：11cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：淡褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土師器
94	杯	S P-154	口径：11cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：灰褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		須恵器 立ち上がりの 外側に一帯の 沈線を施す
95	不明	S P-172	底部径：5cm (復元)	胎土：壺 燒成：良好 色調：(外)淡褐色 (内)茶褐色		外面：(上部)ナデ (中間)横ギサエ (下部)ヘラ削り 内面：(上部)ナデ (中間)ヘラ削り (下部)ヘラミガキ		生土器

番号	器種	出土地点	法量	地土・焼成・色調	口縁部	体部	底部	備考
96	蓋	S P-196		地土：黒 焼成：良好 色調：(外)灰褐色 (内)灰色		内外面回転ナゲ		須恵器
97	小皿	S P-196	口径：9cm (復元)	地土：黒 焼成：灰 色調：灰黄色	ヨコナゲ	外縁：ナゲ(指オサエの痕跡) 内縁：ナゲ		土器器
98	杯	S P-196	口径：15cm (復元)	地土：黒 焼成：やや青い 色調：灰白色	ヨコナゲ	内外面共ナゲ		土器器
99	甕	S P-196	底径：5cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：黑褐色 (内)黑色		外縁：(上部)ナゲ (下部)指オサエ 内縁：表面整丸の為調整不明	外縁へつる物 をえぐり取る 新生式土器 2段内外の 石突、石突 を含む	
100	小皿	S P-205	口径：10cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：灰黄色	ヨコナゲ	内外面共ナゲ		土器器
101	杯	S P-236	口径：10cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：暗青灰色	ヨコナゲ	外縁：(上部)回転ナゲ (下部)回転ヘラ 削り 内縁：回転ナゲ		須恵器
102	不明	S P-236	口径：10cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：深褐色	ヨコナゲ	内外面共ナゲ		土器器 金屬物を 多量に含む
103	杯	S P-254	口径：10.6cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：晦灰色	ヨコナゲ	内外面共ナゲで丁寧に 仕上げる		土器器 須恵器杯と 発掘時に 同じものと思 われる
104	甕	S P-254	口径：13cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：晦灰色	ヨコナゲ	外縁：縱方向のナゲ 内縁：ナゲ		古式土器器 生駒西側
105	甕	II層掘り下げ 9区	口径：8cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：灰黄色	ヨコナゲ	外縁：表面剥離の為調 整不規 内縁：ヘラ削り		古式土器器
106	甕	II層掘り下げ 21区	口径：12cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：暗褐色	ヨコナゲ	外縁：ハケ目 内縁：ヘラ削り		古式土器器
107	高杯	II層掘り下げ 地区不明	口径：17.8cm 底径部：11.6cm 高さ：11.4cm	地土：黒 焼成：良好 色調：暗赤褐色	(朴部) 口縁：ヨコナゲ 外縁：ヘラ削り 内縁：表面剥離 の為調整 の跡 (脚部) 外縁：(上部)ヘラ削り (下部)ナゲ 内縁：(上部)ヘラ削り (下部)縦かいハ ケ目	ヨコナゲ		古式土器器 生駒西側
108	高杯	層位不明10区	口径：16cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：晦褐色	ヨコナゲ	内外面共ナゲ		土器器
109	ミニチャップ 甕	II層掘り下げ 21区	口径：6cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：深褐色	ヨコナゲ	内外面共指オサエ		
110	杯蓋	II層掘り下げ 19区	口径：12cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：暗青灰色	ヨコナゲ	外縁：(上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナゲ 内縁：回転ナゲ		須恵器
111	杯蓋	II層掘り下げ 5区	口径：12cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：灰青色	ヨコナゲ	外縁：(上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナゲ 内縁：回転ナゲ		須恵器
112	杯蓋	層位不明9区	口径：13cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：灰青色	ヨコナゲ	外縁：(上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナゲ 内縁：回転ナゲ		須恵器 わずかに自 然地が付着
113	杯蓋	II層掘り下げ 21区	口径：12cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：暗褐色	ヨコナゲ	外縁：(上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナゲ 内縁：回転ナゲ		須恵器 外縁に自然 地が付着
114	杯蓋	層位不明9区	口径：12.5cm (復元)	地土：黒 焼成：良好 色調：灰色	ヨコナゲ	外縁：(上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナゲ 内面回転ナゲ		須恵器

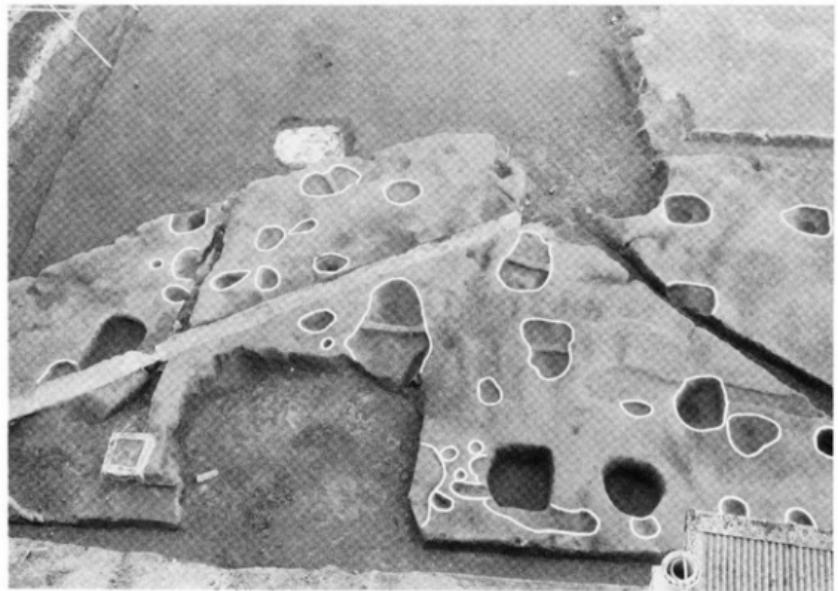
番号	器種	出土地点	法 番	胎土・焼成・色調	口縁部	体 部	底 部	備 考
115	鉢蓋	日暮掘り下げ 21区	口径: 14cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 青灰色 (内)暗灰黄色	ヨコナダ	外面: (上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナダ 内面回転ナダ		須恵器
116	杯蓋	日暮掘り下げ 21区	口径: 14cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 青灰色	ヨコナダ	外面: (上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナダ 内面回転ナダ		須恵器 一部外側に自然釉付着
117	杯蓋	日暮掘り下げ 19区	口径: 14cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: (外)暗青灰色 (内)暗灰色	ヨコナダ	外面: (上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナダ 内面回転ナダ		須恵器
118	杯蓋	日暮掘り下げ 21区	口径: 15cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: (外)深灰色 (内)灰黑色	ヨコナダ	外面: (上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナダ 内面回転ナダ		須恵器
119	杯蓋	日暮掘り下げ 20区	口径: 14cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: (外)深灰色 (内)灰白色	ヨコナダ	外面: (上部)回転ヘラ 削り (下部)回転ナダ 内面回転ナダ		須恵器
120	杯	日暮掘り下げ 19区	口径: 12cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 青灰色	ヨコナダ	外面: (上部)回転ナダ (下部)回転ヘラ 削り 内面: 回転ナダ		須恵器
121	杯	日暮掘り下げ 21区		胎土: 密 燒成: 良好 色調: 青灰色		内外面共回転ナダ		須恵器
122	杯	日暮掘り下げ 19区	口径: 11.7cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 暗青色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器 外表面に自然釉付着
123	杯	日暮掘り下げ 19区	口径: 10.6cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 暗灰色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器
124	杯	日暮掘り下げ 21区	口径: 14cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 暗灰色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器
125	杯	日暮掘り下げ 20区	口径: 13cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 暗灰色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器
126	杯	日暮掘り下げ 21区	口径: 14cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 青灰色	ヨコナダ	外面: (上部)回転ナダ (下部)回転ヘラ 削り 内面: 回転ナダ		
127	杯	日暮掘り下げ 21区	口径: 12.4cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 各邊灰色 (内)灰褐色	ヨコナダ	外面: (上部)回転ナダ (下部)回転ヘラ 削り 内面: 回転ナダ		須恵器
128	杯	日暮掘り下げ 9区	口径: 13cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 暗灰色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器
129	杯	層位不明13区	口径: 11.2cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 青灰色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器
130	杯	落込み21区	口径: 14cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 暗灰色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器
131	杯	日暮掘り下げ 21区	口径: 11cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 暗灰色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器
132	杯	日暮掘り下げ 19区		胎土: 密 燒成: 良好 色調: 暗灰色 (内)灰褐色	外縁: (上部)回転ヘラ (下部)回転ヘラ削り 内面: 回転ナダ			須恵器
133	杯	日暮掘り下げ 21区	口径: 13cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 暗青色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器
134	短筒甌	落込み21区	口径: 11cm (復元)	胎土: 密 燒成: 良好 色調: 青灰色	ヨコナダ	内外面共回転ナダ		須恵器

番号	器種	出土地点	性 型	胎土・焼成・色調	口 端 部	体 部	底 部	備 考
135	高杯	日賀園下げ 21区	口径: 12.7cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 青灰色	ヨコナデ	外面: (上部) 回転ナデ -(中部) 波次文を 施す能(?) 回転ヘラ 削り 内面: 回転ナデ		須恵器
136	高杯	落ち込み 25区	底径部: 13cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: (外) 淡灰青色 (内) 淡色		内外面共回転ナデ	ヨコナデ	須恵器 透しを有する
137	高杯	層位不明 9区	底径部: 13cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 青灰色		内外面共回転ナデ	ヨコナデ	須恵器 透しを有する
138	高杯	日賀園下げ 18区	底径部: 10cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡灰青色		内外面共回転ナデ	ヨコナデ	須恵器 透しを3ヶ所有する
139	高杯	日賀園下げ 21区	底径部: 13cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡色		外面: 回転ナデ波状文 (2段) 内面: 回転ナデ		須恵器 内面に自然 地の付着
140	瓶	日賀園下げ 13区	口径: 10cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 青灰色	ヨコナデ	外面: 回転ナデ(波状 文と施す) 内面: 回転ナデ		須恵器
141	杯	日賀園下げ 21区	口径: 13.2cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ	外: ヘラ切り	須恵器
142	杯	日賀園下げ 22区	口径: 12cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡青色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ	外: ヘラ切り	須恵器
143	杯	日賀園下げ 22区	口径: 17cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		須恵器
144	杯	土器群(日賀) 9区	口径: 12cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		須恵器
145	碗	日賀園下げ 25区	口径: 14cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 明褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土師器
146	杯	日賀園下げ 19区	口径: 13cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡褐色	ヨコナデ	外面: ハケ目の痕跡 内面: ナゲた後ハケ目		土師器
147	碗	日賀園下げ 19区	口径: 13cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: (外) 淡青褐色 (内) 明黃褐色	ヨコナデ	内外面共ナデた後ハケ 目の痕跡		土師器
148	碗	日賀園下げ 19区	口径: 18cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土師器
149	碗	日賀園下げ 13区	口径: 16cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 明褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土師器
150	杯	日賀園下げ 19区	口径: 15cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡褐色	ヨコナデ	内外面共回転ナデ		土師器
151	盤	土器群(日賀) 9区	口径: 16cm (復元)	胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡褐色	ヨコナデ	内外面共ナデ		土師器 内面に繪文 を有する
152	不明	落ち込み 21区		胎土: 褐 燒成: 良好 色調: 淡褐色		内外面共回転ナデ		須恵器

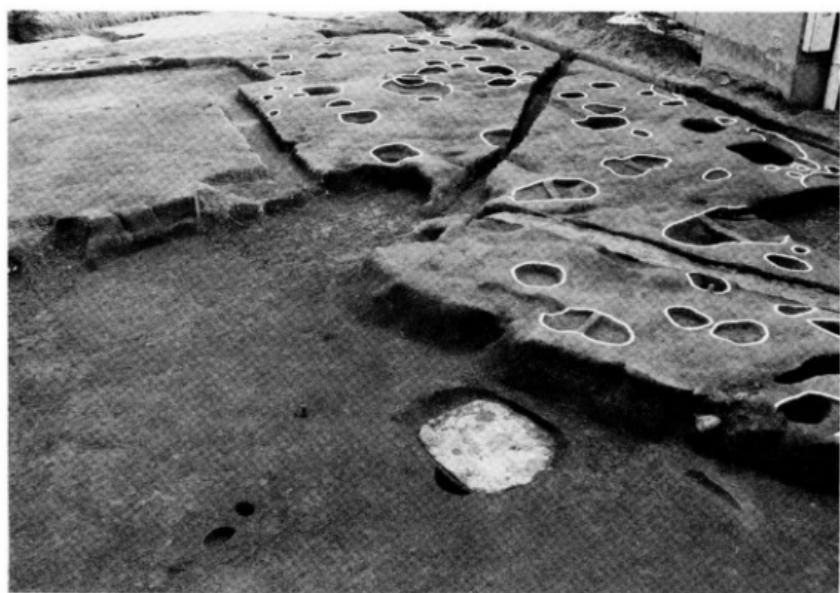
# 図 版



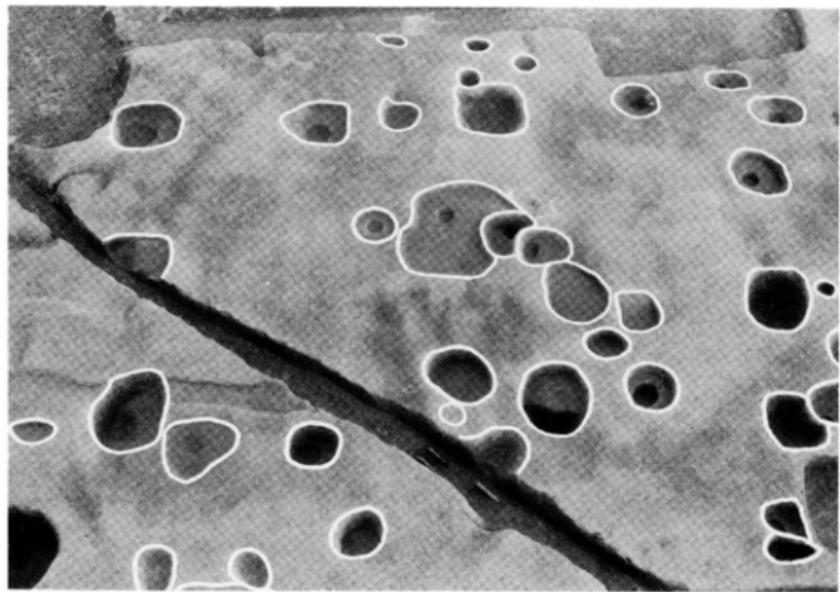
全景（西より）①



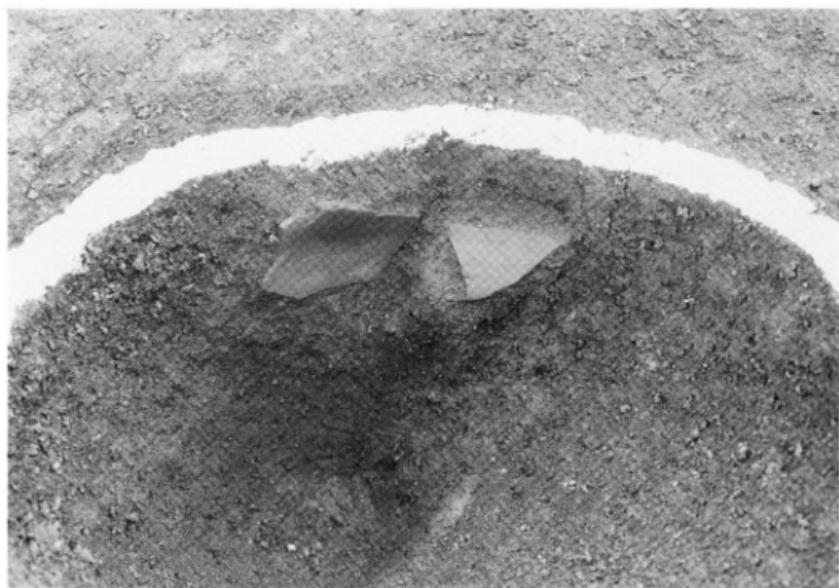
全景（西より）②



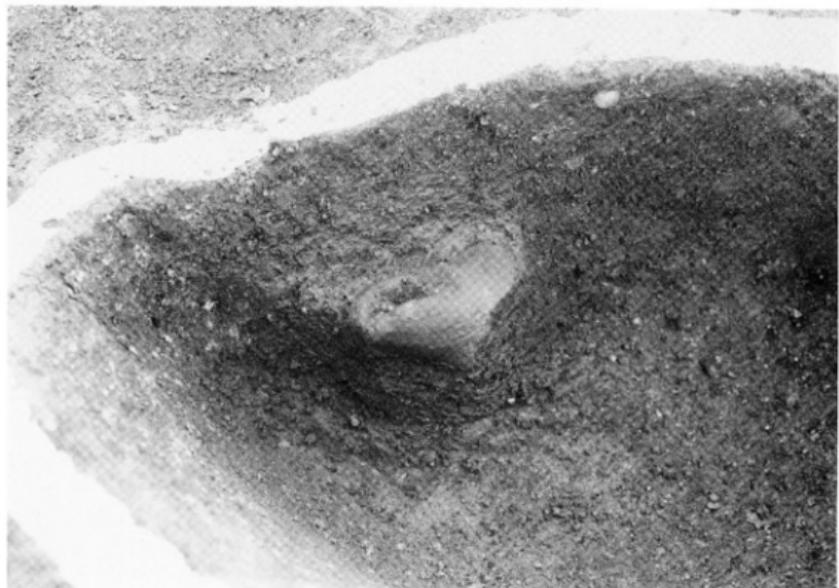
全景（北より）



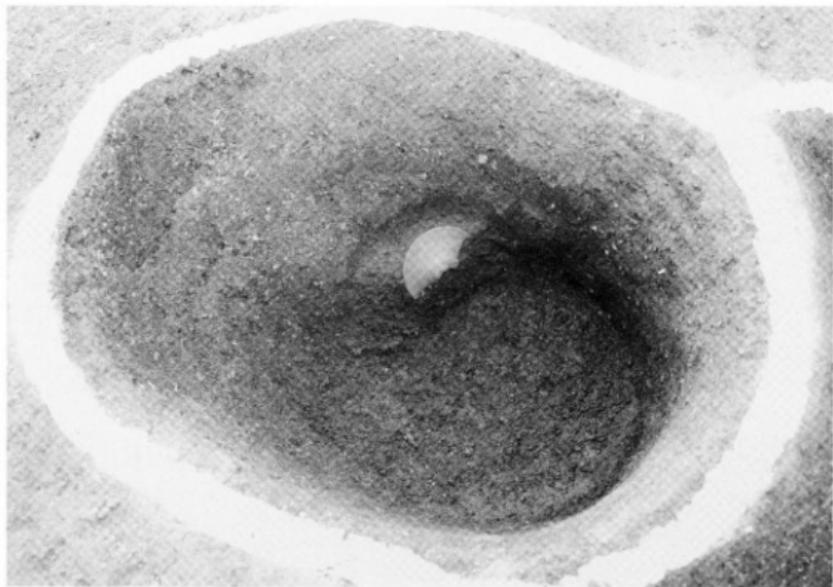
S B01



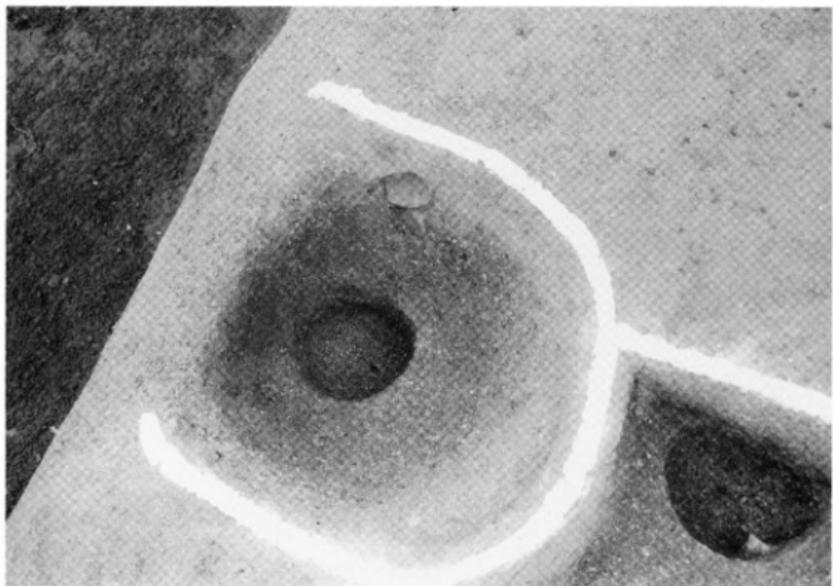
S P 47 遺物出土状況



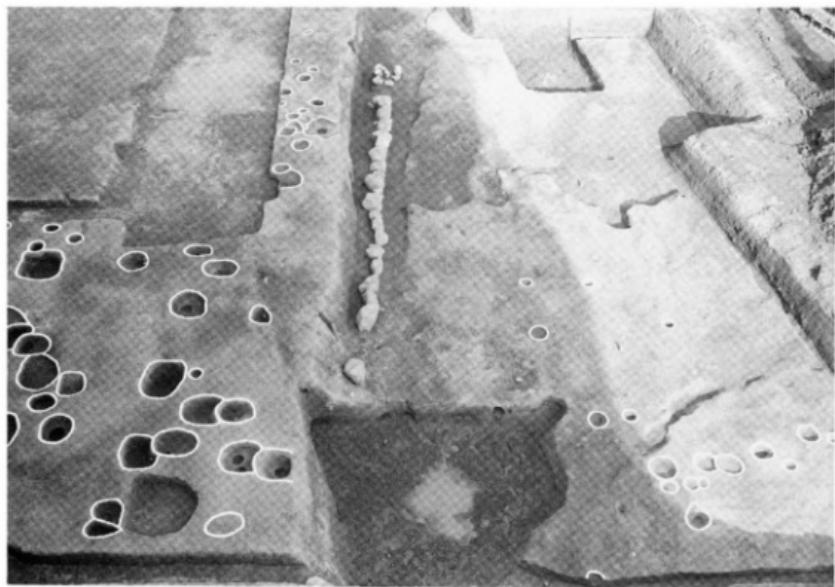
S P 51 遺物出土状況



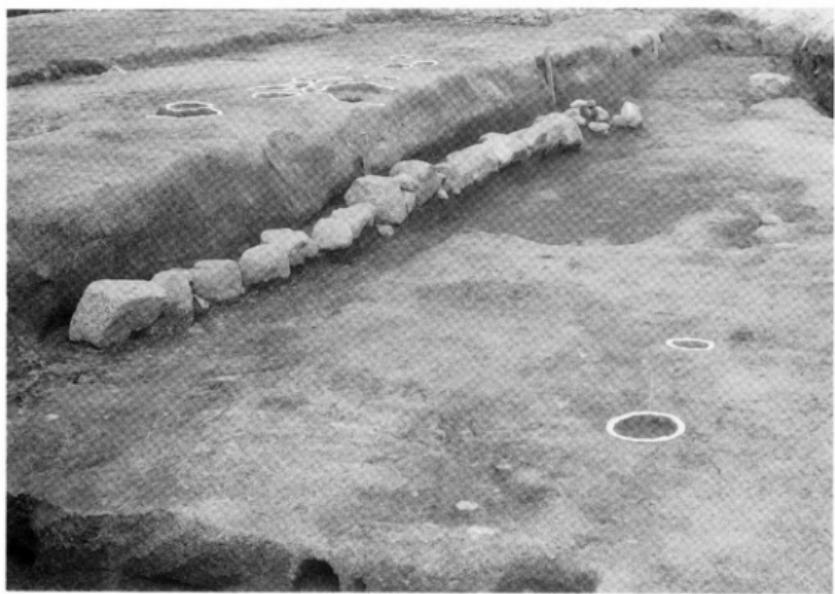
S P 55 遺物出土状況



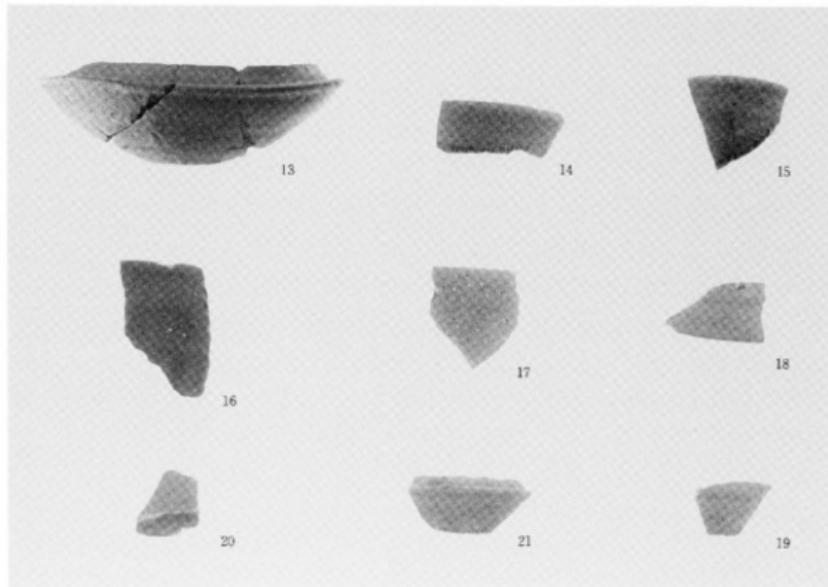
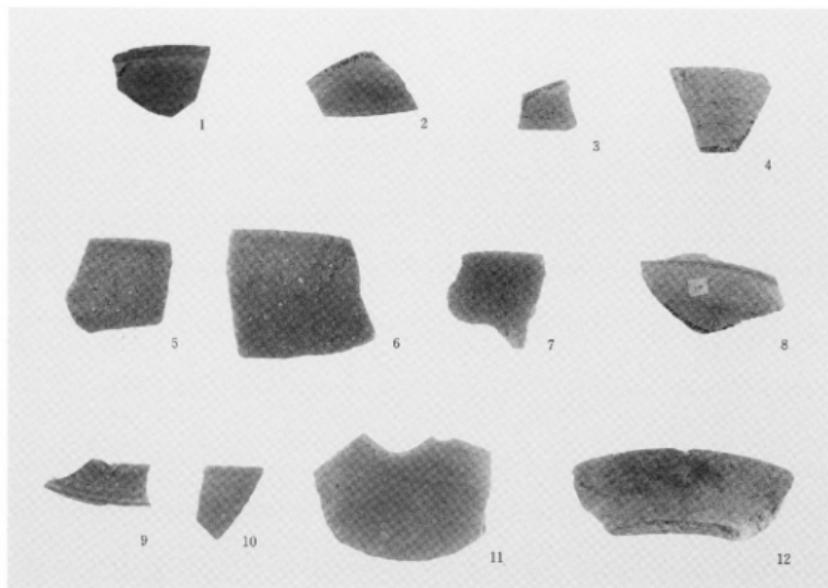
S P 62 遺物出土状況



水路



同上





全景（北東より）



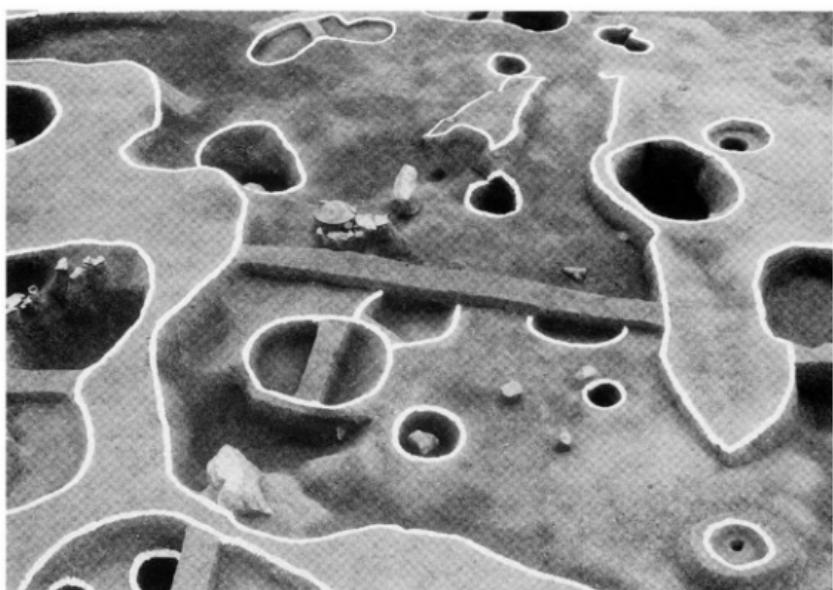
全景（西より）



S D01



鉄製品出土状況



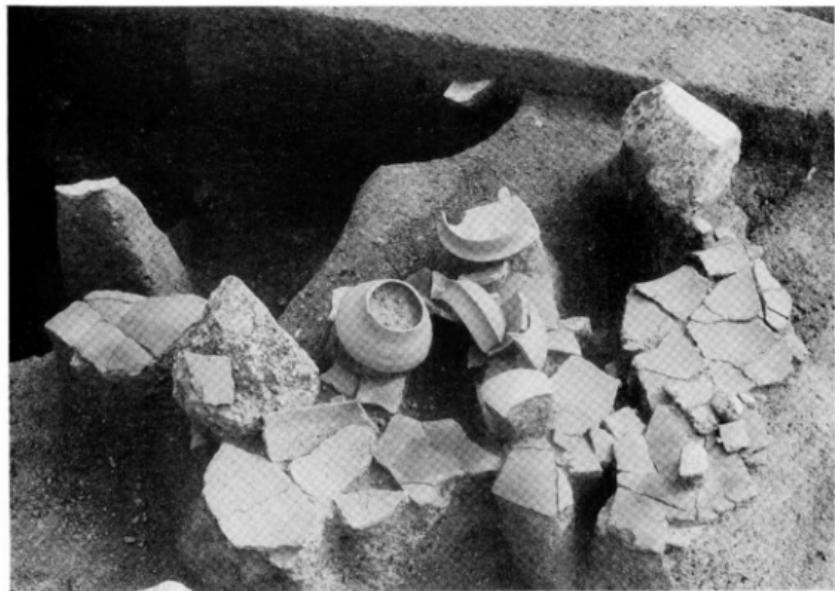
S K05



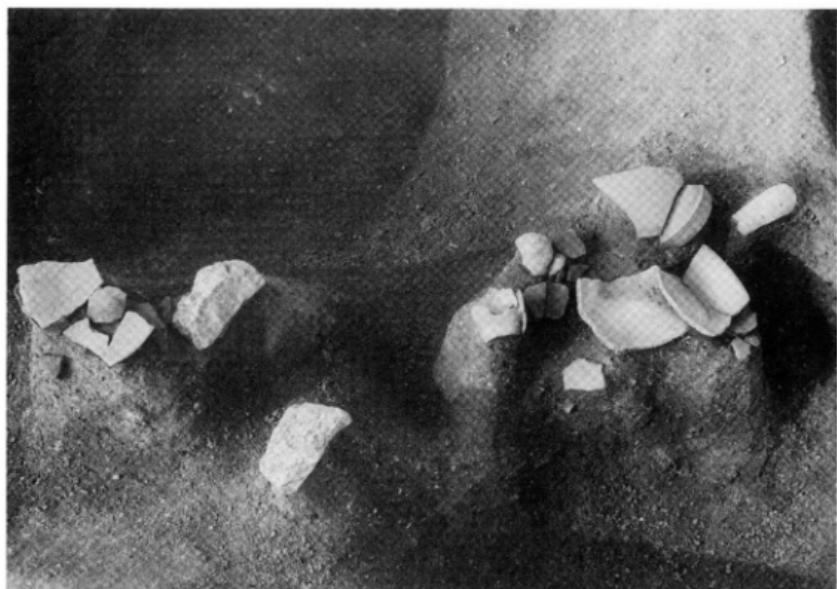
S K05 遺物出土状況



S K11



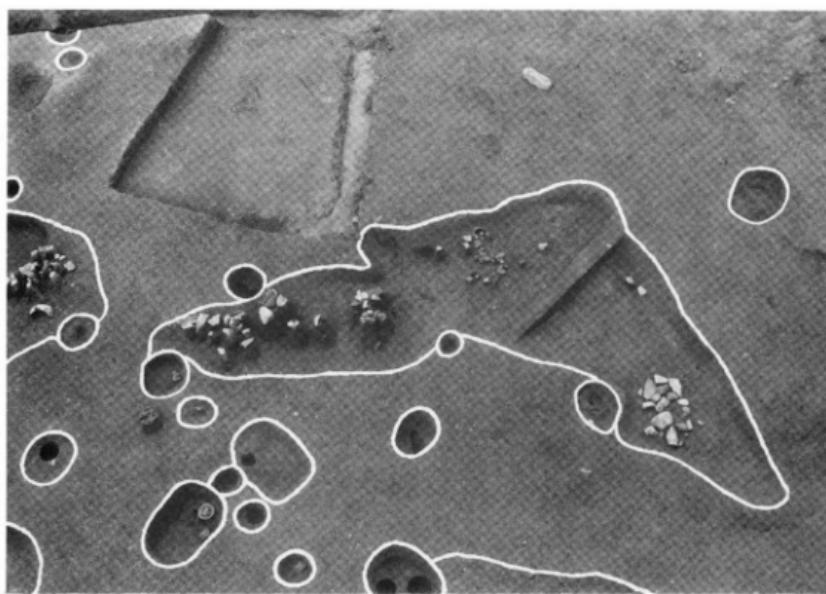
S K11 遺物出土狀況①



S K11 遺物出土状況②



同上



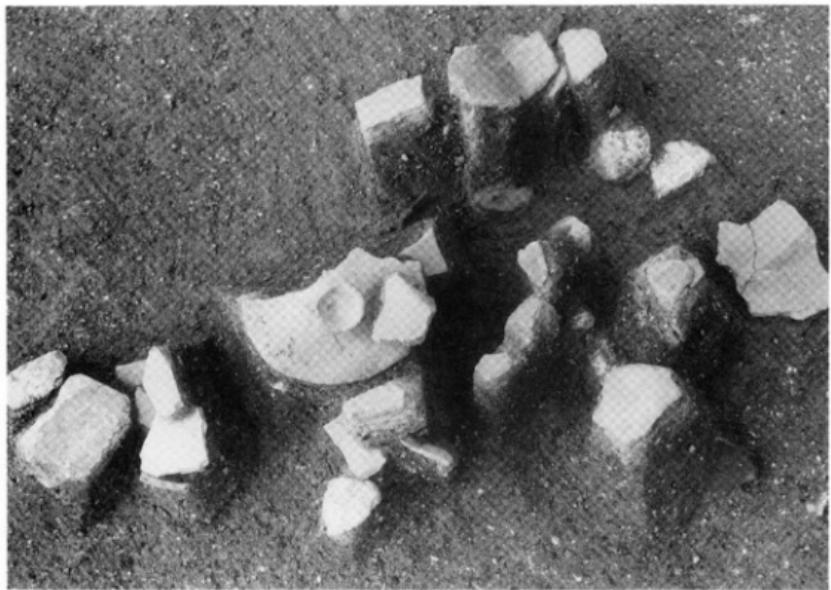
S K 29



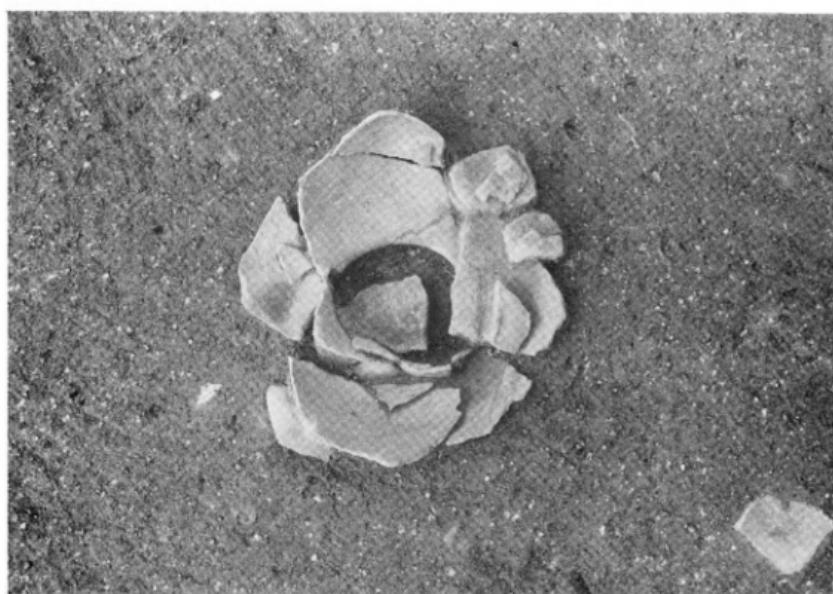
S K 29 遺物出土状況



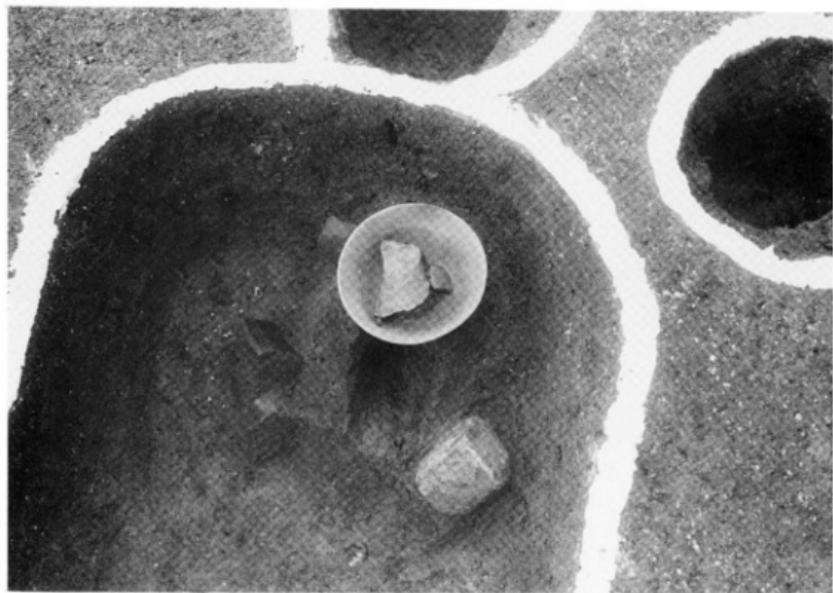
S K 42 遺物出土状況①



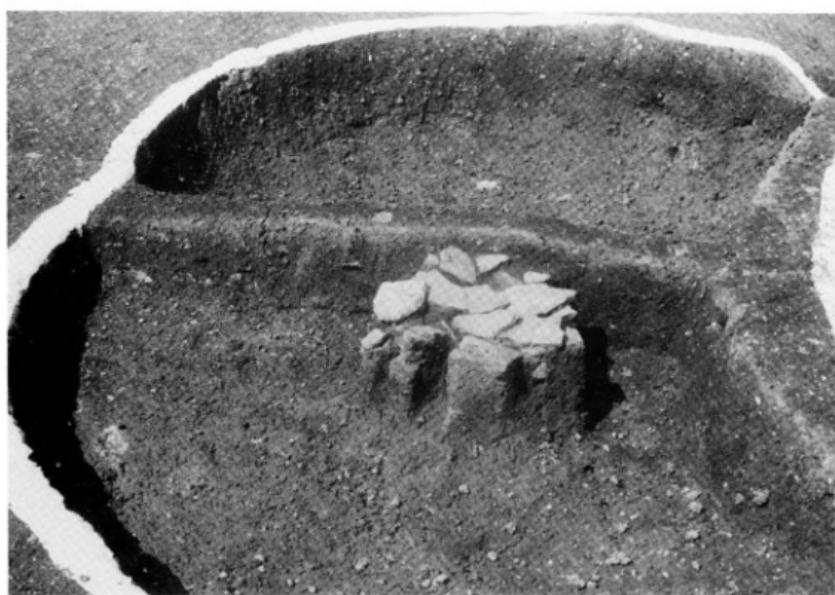
S K 42 遺物出土状況②



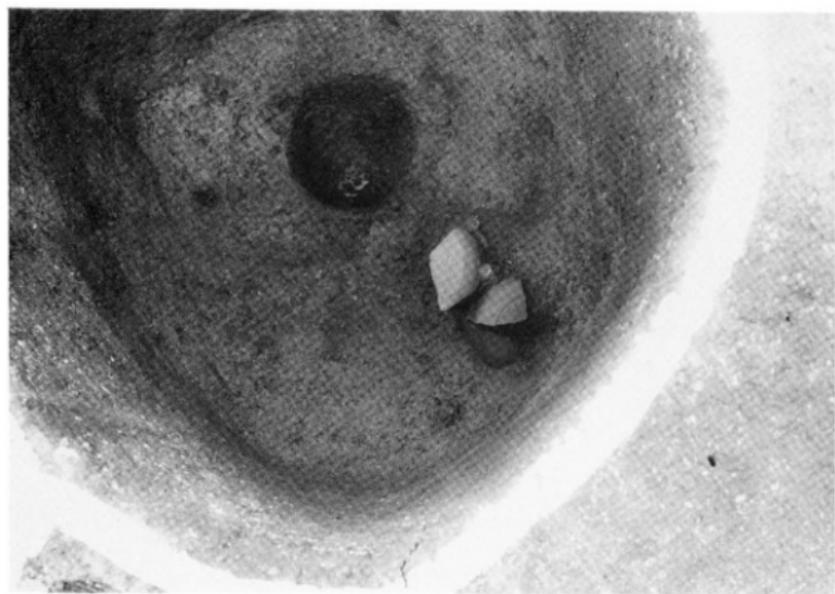
S K42 遺物出土状況③



S K32 遺物出土状況



S K 35 遺物出土狀況



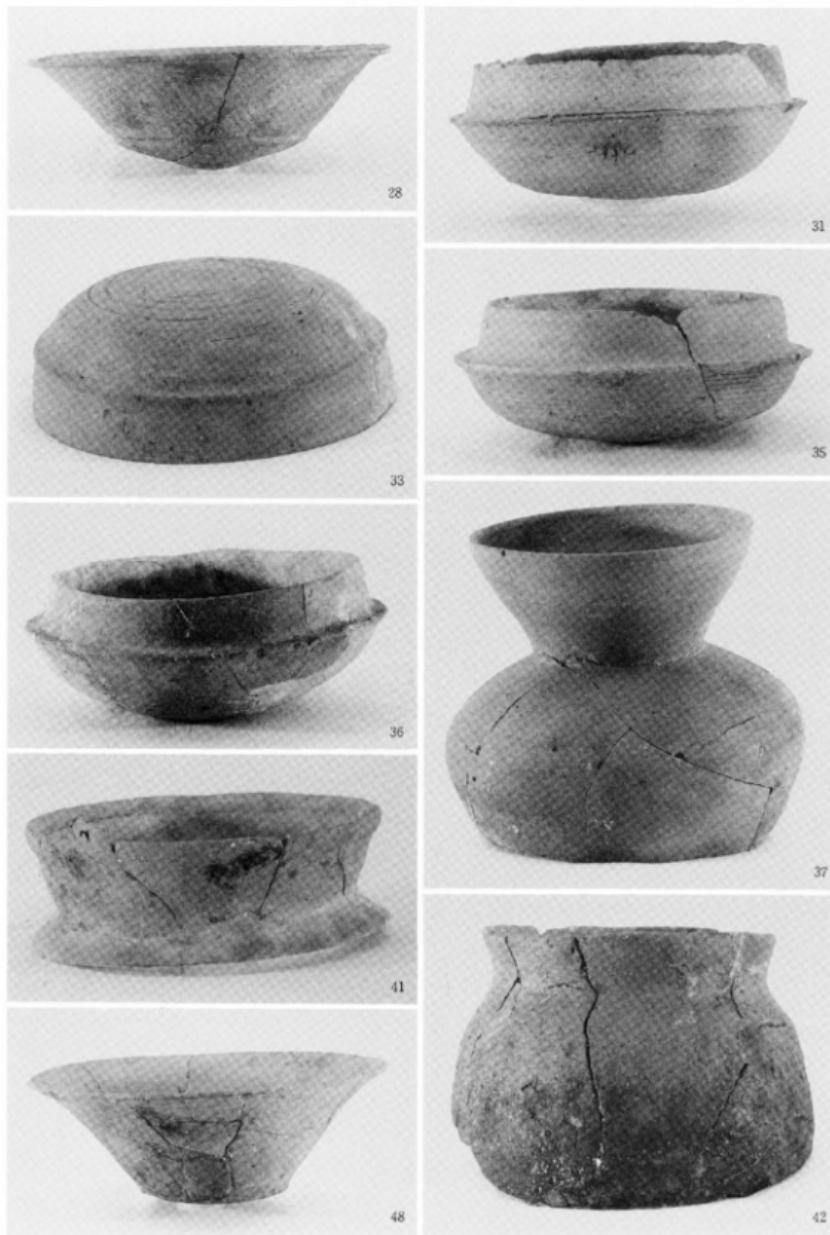
S K 36 遺物出土狀況



水路 1



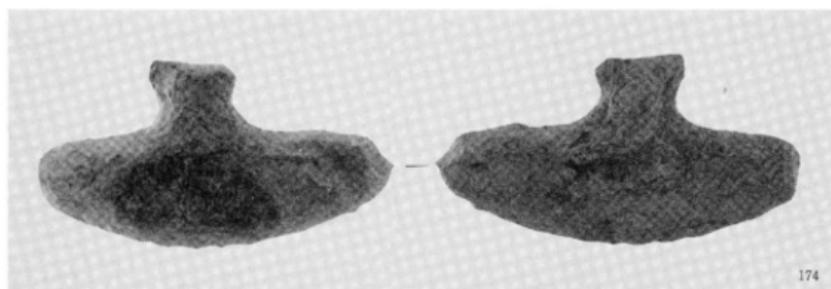
水路 2





図版十九 鍋田川遺跡出土遺物(3)

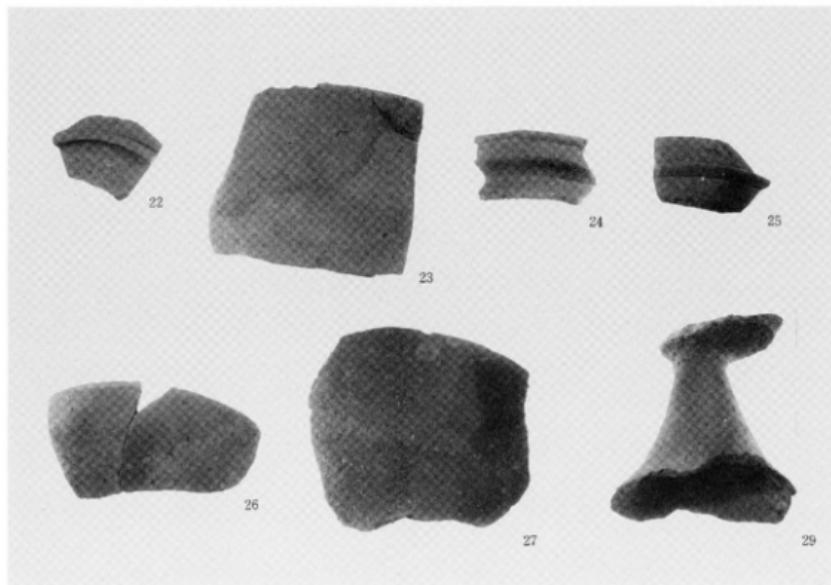




174



175



22

24

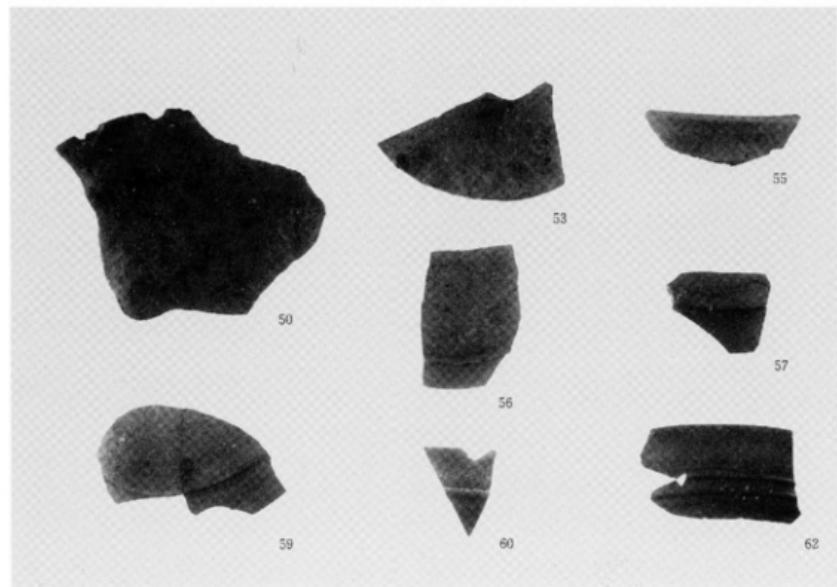
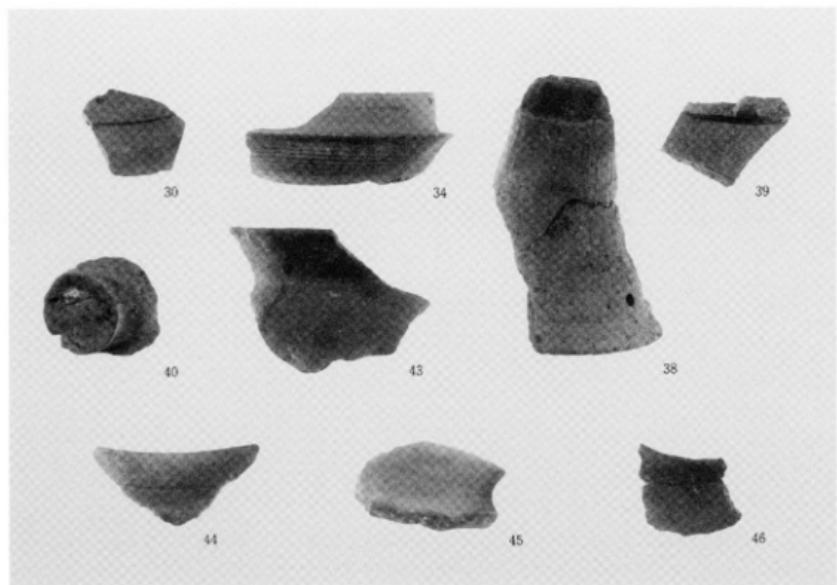
25

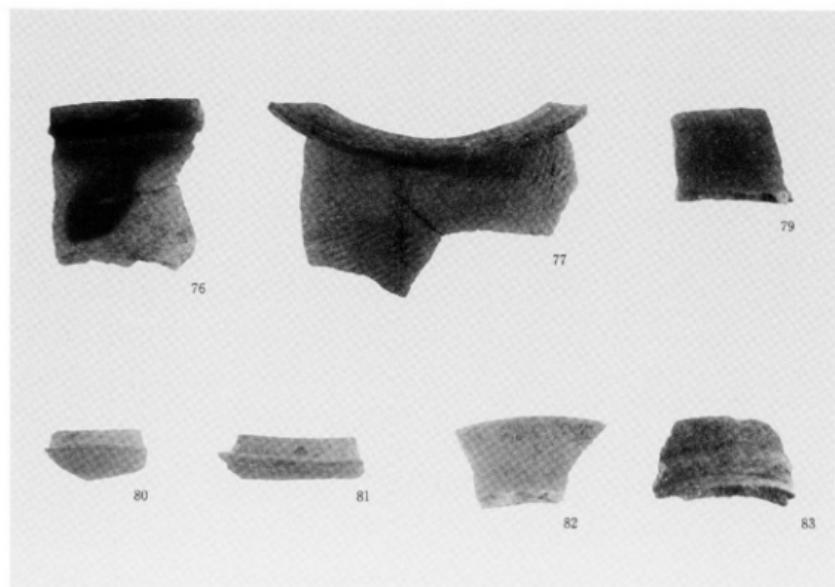
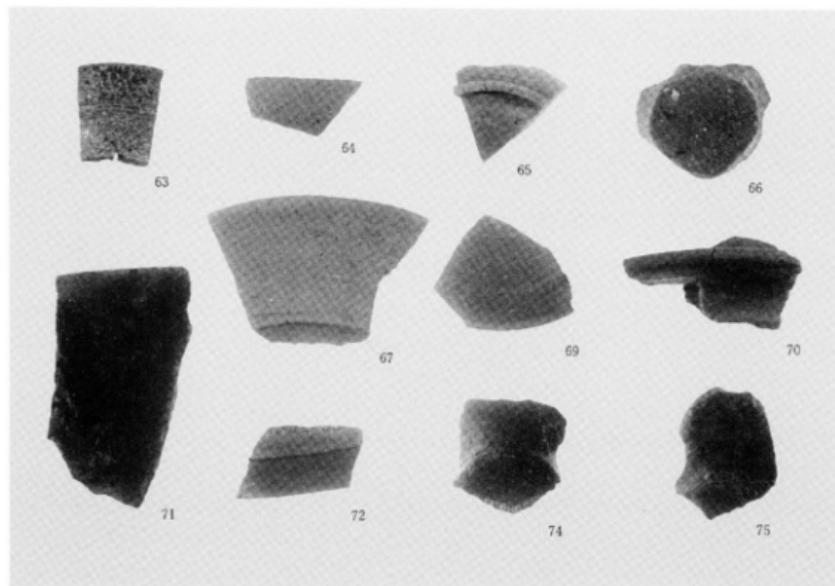
26

27

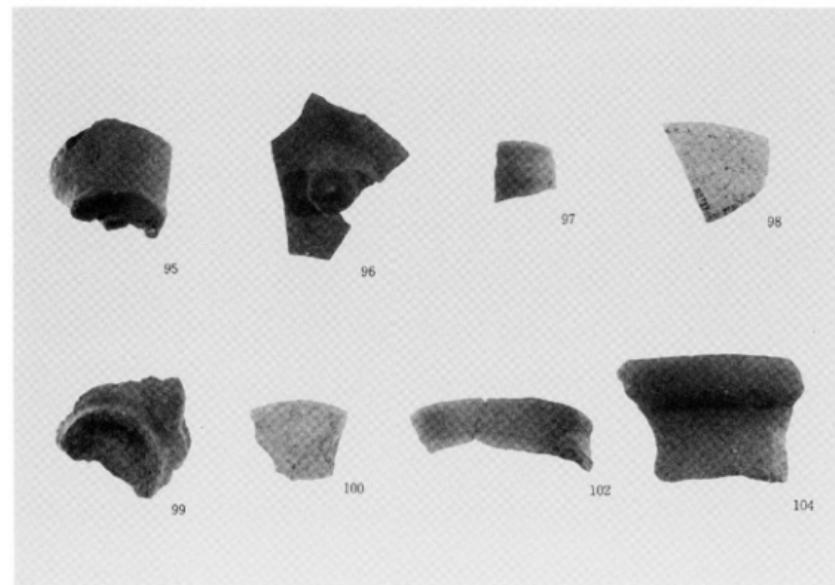
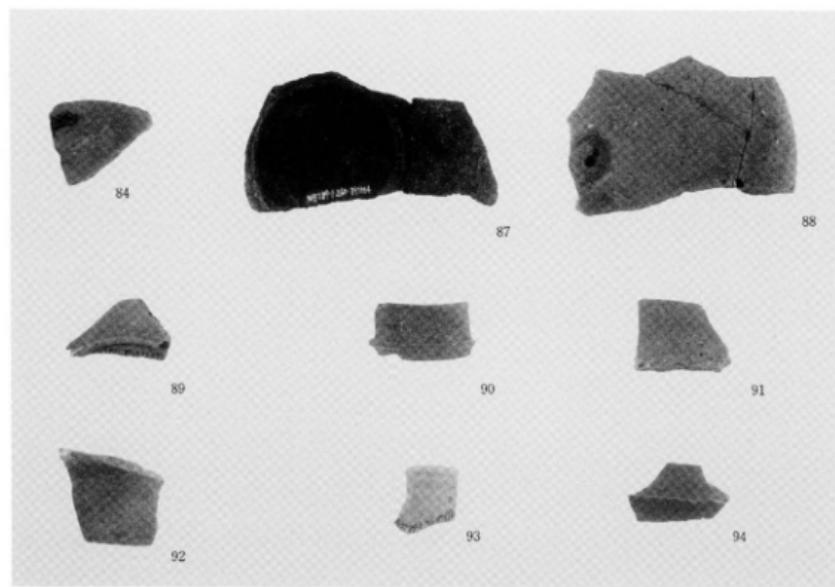
29

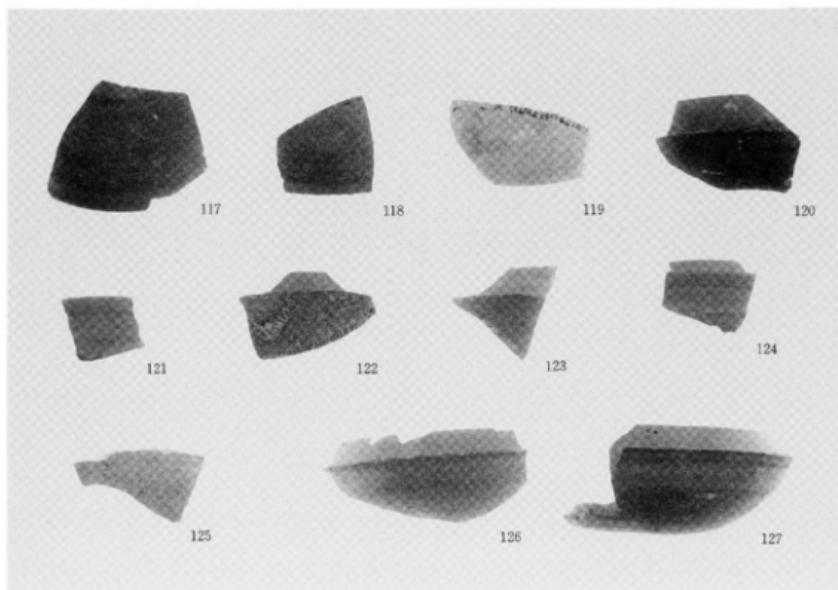
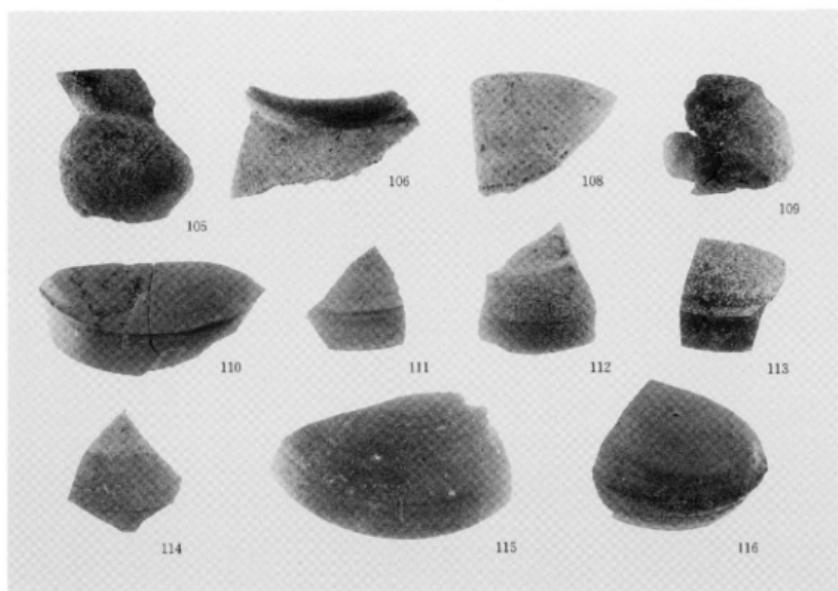
図版二十一 鍋田川遺跡出土遺物(5)

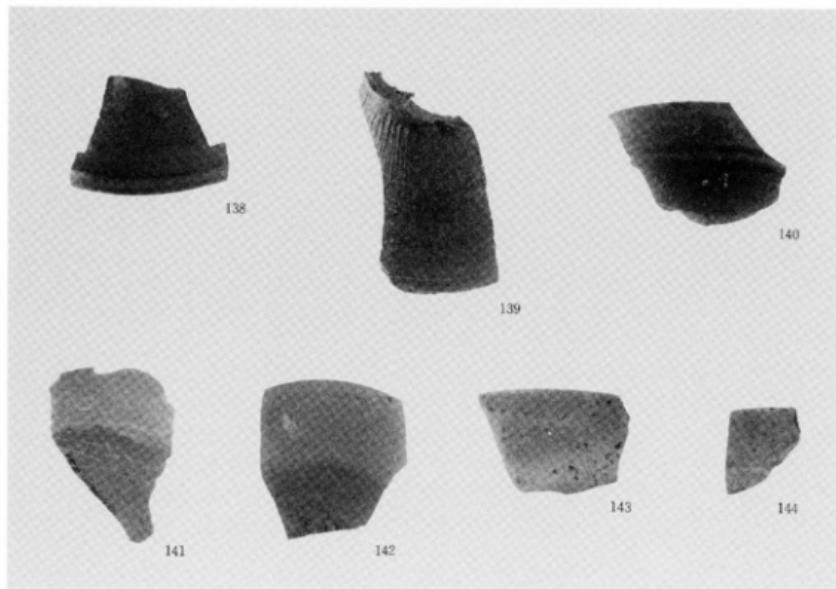
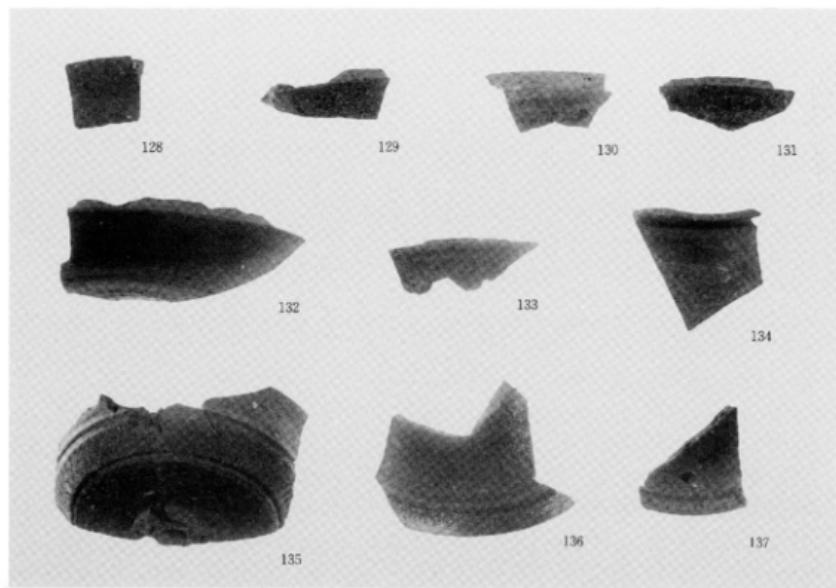




圖版二十三 鶴田川遺跡出土遺物(7)







図版二十六 鍋田川遺跡出土遺物(10)

